麻原彰晃の世界 PART5

絶対の真理

THE ABSOLUTE TRUTH

すべてを解き明かす
カルマの理法がここに

麻原彰晃



麻原彰晃の世界 PART 5

絶対の真理

THE ABSOLUTE TRUTH

すべてを解き明かす
カルマの理法がここに

麻原彰晃







カルマの法則とは何か？

例えばここに水があるとしよう。その水に熱を加えたら、沸騰し水蒸気になるし、水蒸気から熱を奪ったら、また元の水に戻る。水から熱を奪ったら、氷になるし、氷に熱を加えたら水になる。これがカルマの法則である。

つまり善業という熱を加えたらわたしたちを構成している五大エレメントの構成要素と五蘊（ごうん）が変化し、天界へ至ることができるし、悪業という熱を奪う作用を五大エレメントに働きかけたなら、五大エレメントの構成要素と五蘊の変化によって、地獄へと至るのである。

これは、真理の教えを学び、その実践を行なうことによって内なる五感を使って、このカルマの法則を見、聞き、におい、味わい、感じることができる。

カルマの法則を信じる者は幸いである。

——麻原彰晃

はじめに

仏陀釈迦牟尼（覚者サキャ神賢）の弟子に、マハーモッガラーナという高弟がいます。彼は、真理の実践によって得た神秘力を縦横無尽に駆使し、周囲から「神通第一」と称され、「智慧第一」と呼ばれたサーリプッタと共に釈迦牟尼の二大弟子とされた優れた修行者でした。

ところが、このマハーモッガラーナは、外道（他宗教の修行者）に惨殺されるという悲劇的な死を遂げています。しかし、彼はそのとき、それを自己の「カルマ」と受けとめ、その運命を甘んじて受け入れて死んでいったといわれています。

なぜ、マハーモッガラーナは神通力を使って危険を回避しなかったのでしょうか。一体、「カルマ」とは何なのでしょうか。

カルマ（パーリ語で kamma）とは、一般に日本の仏教では「業」と訳されています。簡単にいうならば、

「この世に生じるすべての現象の法則」

「自己が過去になしたことが必然的にある特定の結果を生じさせること」とでもいえばいいでしょうか。それは、大変深い意味を持っており、「輪廻転生（りんねてんしょう）」と共に仏教の教えの土台ともいえるものなのです。

カルマの法則から、わたしたちは次のようなことを理解することができます。

(一)すべての生き物は輪廻転生を繰り返しており、その転生先はカルマによって決定される。

(二)つまり、人間界をはじめとする世界はカルマによって形成されている。

(三)自己がなしたことは、必ず自己に返ってくる。一見理不尽に思われる災難でも、必ず自分に原因がある。

(四)悪いカルマを清算し、善をなすことによって、高い世界への転生が可能となり、絶対の幸福が得られる。

初めに挙げたマハーモッガラーナの例に見られるように、このカルマの法則を

知る仏教徒の行動は、ときにわたしたちの目には奇妙に映ることがあります。しかしそれは、

「一見自分にとってマイナスに思われることが実は真の幸福へ導く」

こと、つまりカルマの法則という真理を彼らが理解していたからなのです。マハーモッガラーナは死後、人間の世界よりずっと高い天界に転生したといわれています。

この仏教の深い智慧、そこには逆説的な「絶対の幸福」が潜んでいます。

本書で、麻原彰晃尊師はこの「カルマの法則」の真理を明快に説き明かされました。それはわたしたちの人生観を一変させてしまうものかもしれません。そしてそこには、わたしたちが日々の生活の中ですぐに活用できる様々な示唆にあふれれています。

本書を読まれるすべての方が、この深遠な真理を理解され、絶対幸福への道を歩いていただきたいと思います。

一九九一年九月　広報編集部



麻原彰晃の世界 ❖ PART 5

絶対の真理

すべてを解き明かすカルマの理法がここに

――目 次――





第二章　どのようにカルマを理解するか？

第三章　カルマの法則にのっとった真の幸福を明かす



第一章　カルマ——その本質を探る

第一話　なぜ、なしたことが返ってくるのか?

「カルマ＝波の理論」

◇一九八八年一月二十九日

◉最高の幸福――真理との出会い

今日は、あなた方にね、まずあなた方がいかに幸運な人生の持ち主であるか、そして、修行するということにおいて、いかにね、恵まれたカルマの持ち主であるかということについて話したいと考えています。

あなた方が、ヒナヤーナの修行者であれ、あるいはマハーヤーナの修行者であれ、あるいは稀な最高のカルマの持ち主であるタントラヤーナの修行者であれ、

ね、あるいはヨーガ系統の修行者であれ、いずれにしろ真理の探求ができるということは素晴らしいことだ。そして、そのチャンスというものは、わたしは無限大分の一に等しいくらいのね、稀なチャンスだと考えている。

仏典ではね、こう書かれているんだ。まず、わたしたちがこの人間界に生まれ変わる、その条件というものはね、地獄の世界というものがあって、その地獄の世界というものを、夜見える星の数だと考えたならば、昼間に見える星の数が餓鬼の世界であると。そして、同じように夜見える星の数を餓鬼の世界だと考えたならば、動物の世界というものは昼間に見える星の数であると、ね。そして、夜見える星の数を動物の世界だと考えたならば、人間の世界というものは昼間に見える星の数であると、ね。

これはどんどんどんどん行って神々の世界に至るわけだけども、修行できる、本当の意味でエンライトメント（解脱）、あるいはサルベーション（救済）できる修行の場っていうのは人間界が最もよろしいということになってるわけだね。

もちろん、人間界の上には阿修羅の世界、あるいは天界という世界があるわけ

だけども、なぜ天界に住む神々、あるいは阿修羅に住む魂より、人間の世界の魂の方が修行に向いているかというとね、それは人間の世界というものはある程度楽しみもある、ある程度苦もあるという状態で、要するに苦と楽の比較っていうものがしやすい状態なんだね、ちょうど。

徳という点からいったら、阿修羅、それから天界の方が上だ。そしてね、阿修羅の魂というものはすごく真面目な魂で、日々努力はしているわけだけども、その努力の目的が、神々を超越したいと、天界を超越したいための嫉妬心から出ている努力なんだよ。だから報いられるとしても、結果としていろんな形が出てくるとしても、心の状態というのは絶えず殺伐としてるわけだね。

じゃあ、神々はどうかというと、膨大なる功徳によって満足できる状態にいるわけだ、この現象界で。だから、別にこの現象界を捨てて、現象界を乗り越えてアストラルやコーザルのニルヴァーナに入ろうという気持ちにならないわけだね。

そこへいくと、先程言ったとおり人間の世界というのは適当に苦があり、適当に楽があるから、高い世界からいったん落っこちて人間の世界に入った魂は、当

然より高い世界へバックしようとする。そして、わたしたちの無意識の意識というものは、その繰り返し、功徳を積めば上昇する、悪業を積めば落下するという繰り返しを知っているから、天界へ行ってもしょうがないと、それよりももっと自由で壊れない世界へ行きたいと考えるわけだ。そこから本当の意味での修行が始まるわけだ。

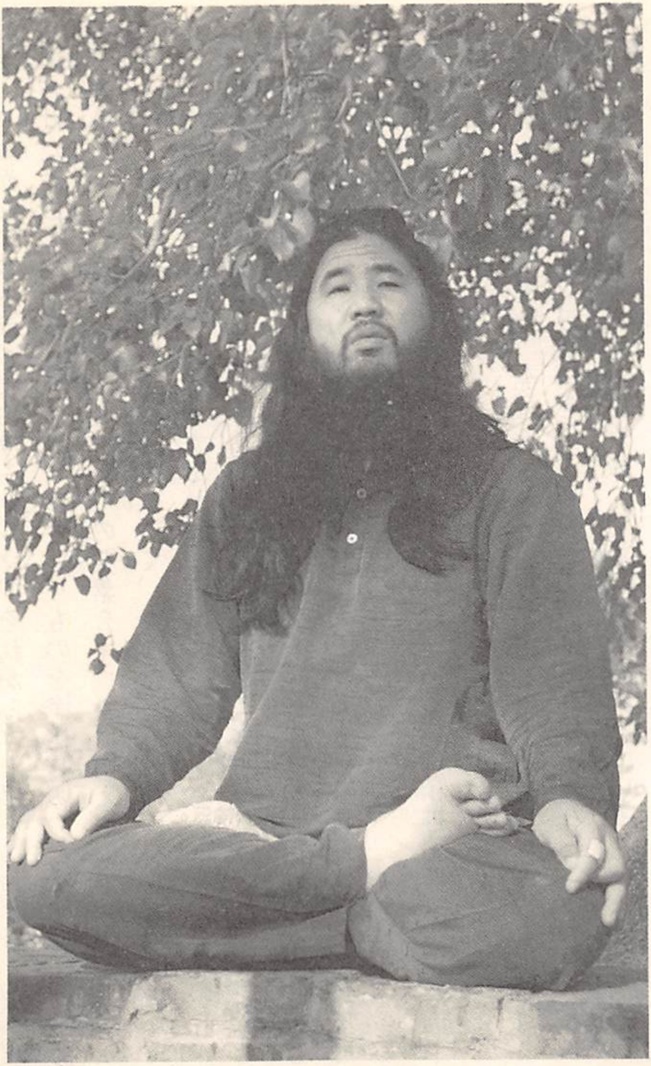
またね、仏典ではエンライトメントの確率について、こういう表現を使っている。一匹の盲目の亀がいると。この盲目の亀は海底に普段は生活していると。そして、その盲目の亀は数百年に一回、海上に上がり呼吸をして、また海底に沈む。ちょうどそのときにね、その海上を牛のくびきがね——まあ牛のくびきでなくてもいいよ、輪っかでもいい——とにかく輪っかが自然に流れてくると、ね。そして、その数百年に一回、盲目の亀が海上に上がり、そのときに輪っかに偶然に入る確率と、成就する確率は一緒であるというふうにいっているんだね。

そして、その盲目の亀の意味合いというものは何かというと、わたしたちが、さあ真理に向かって修行しようじゃないかと考える心の働き、これが数百年に一

回なんだよ。そして、そのときに真理にね、巡り合える確率、それが海上を流れてくる輪っかだといってるわけだ。で、この海全体は何かというと、六道を輪廻（りんね）している生き物たちなんだよ。それから考えてもわかるとおり、わたしたちが真理に巡り合い、解脱する確率なんていうものは本当に無限大分の一なんだね。そして、今あなたたちはね、数百年に一回の真理とのぶつかり合いに直面しているわけだ。

◉イニシエーション——精神と霊性の浄化

では、なぜ今からあなた方がなす修行というものがね、真理だといえるか。それはまずだれもが通る霊的なプロセスというものがある。それから、心のプロセスというものがある。それを、オウムは証明しているということが大切な要素となろう。それはいずれあなた方も経験するだろう。それからね、もう一つ、真理というものは純粋であると。真理というものは透明であると、ね。透明ということは何を意味してるかというと、例えばあなた方の持っている現象界におけるカ



ルマ、それからアストラルにおけるカルマ、それからコーザルにおけるカルマがあるわけだけども、この三つのカルマというものを浄化し切った状態、これが透明であるというわけだ。で、この二つの要素をオウムは備えていると。そして、エネルギー移入が行なわれることによって、あなた方も純粋になり、透明になっていって最終的にはエンライトするわけだ。

現代人はね、大変忙しい。そして、その結果として時間がない、ね。だから、この現代の条件を備えながら、高い世界に入るためには、ね、自分一人で修行しながら心を純粋にしたり、あるいは透明にしたりするということはほとんど不可能に近いとわたしは考えている。

無始の過去から霊的に浄化していくためには、あるいは精神的に、ね、ステージを上げていくためにはグルというものがいて、そのグルがね、あなた方にね、日本語でいうならば灌頂（かんじょう）、英語でいうならばイニシエーションを行なうわけだ。そのイニシエーションの種類というものが三種類あって、この三つのイニシエーションのできるグル、あるいは宗教こそ最高だといわれている。

その三つのイニシエーションというのは、一つは、あなた方に対して秘儀といわれている瞑想技術を、あるいは戒をね、口頭で伝授するというやり方。それから第二番目には、ね、シャクティーパットを含む、アストラル、イメージの浄化を行なうやり方。そして、第三段階にはね、あなた方のコーザル・レベルの心をチェンジさせるというやり方と、この三つをいいます。

そして、経典では、このイニシエーションを受けない限り、真の世界への到達はないといっているんだ。わたしはね、特に時間の少ない、時間のない現代人が、しかも正しくない情報の中にいる現代人が、最終の心の純粋な状態、あるいは心のクリアな状態に至るためにはね、イニシエーションは欠くべからざる要素だと考えている。

◉四つのタントラ、六つの極限

では、具体的にだ、わたしたちの持っている、この現象界のカルマ、そしてアストラル世界のカルマ、そしてコーザル世界のカルマをどのようにグルは浄化す

るかという点に、次は話が絞られてくるわけだ。ここで出てくるのがね、まず六つの極限という修行システムが出てくるわけだね。ある人は、いきなりコーザルを変えてしまったならば、アストラル、あるいはこの現象界のカルマが変えられるんじゃないかと、ね——ここでいう現象界のカルマというのは行為だ、アクションだね——といっているが、それはあり得ない。もしそれができるんだったら、とっくの昔にね、みんなマハー・ニルヴァーナに到達しているよ。だからわたしたちがアプローチできるのはね、この現象界、そしてアストラル世界、コーザル世界の順番にしか無理なんだということなんだね。

密儀仏教ではこれをね、四つのタントラに当てはめているんだよ、ね。そして六つの極限を当てはめているんだよ、ね。四つのタントラというのは何かというと、所作タントラ、所作というものは行為をまず清めようと。そして、行タントラ、儀式によって具体的に、いいイメージを入れていこうではないかと。そして、ヨーガタントラ、これによってイメージを浄化し、最後にアヌッタラ・ヨーガタントラ、これによってコーザルの浄化をすると、これら四つをいいます。

六つの極限でいうならば、まず、三つの布施、それから五つの持戒によって、この現象界、行為を浄化する。そして、意志（忍辱）の極限によって、あるいは精進の極限によってアストラル世界を浄化する。そして、禅定、智慧というね、最後の極限によってアストラル世界からコーザル世界を浄化し尽くすと、こういうふうなプロセスで浄化するのがベストであると考えているわけだ。

　じゃあ、例えば六つの極限について、簡単に説明するならば、第一ステージの三つの布施というものは何かというとね、まず物質的な布施。そして、次に相手に安らぎを与える布施。そして、真理を、伝達する布施という三つの布施があるわけだ。

　そして、戒というものはね、これはちょっとアメリカ人の人には大変かなと感じるんだけども、まず虫に至るまで殺してはいけない、ね。盗んではいけない。そして、愛のないセックスをしてはいけない。それから、嘘をついてはいけない。この嘘をついてはいけないというのは、沈黙もいけないわけだね。嘘について沈黙するということもいけない。そして、酒を飲んでもいけない。これが、第一ス

テージの布施、第二ステージの持戒なんだね。

◉三つの布施——財施、安心施、法施

で、第一ステージの布施について詳しく説明するならば、まず財施というものは何かというと、真理に対する布施、これがベストであると。この真理に対する布施というのはね、言い方を換えれば、「真理の体現者と、それに集う者と、真理」の三つに対する布施と、もっと詳しくいうことができる。この布施は来世において、あるいは今生において、あなた方がいかなる形で困ろうとも援助されるであろうという布施なんだね。

次の財施は、食べられない人に対する布施だね。これは本当に仕事をしたくても仕事がなくて、そして、食物がなくて食べられない人に対する布施。これは、あなた方が今生において、あるいは来世において、もし食べられないことがあったならば、必ずそういう物質的な布施があるだろうという結果を招く。そして、一番役に立たないのが、例えば社会的な財施だね。例えば学校に対する布施とか、

ね、これはあなた方がそういう学校とか組織をつくったときに、その恩恵は返ってくるだろうという布施だ。

次に、ね、安らぎを与える布施というものがあって、これも三つのランクに分かれる。あなた方が最も苦しんでいるときに、もしだよ、他人に対して安らぎを与えることができたならば、今生、あるいは来世において、あなた方が本当に苦しんでいるときに、他のだれかがあなた方に安らぎを与える。そして次に、あなた方が、あまり苦しんでいないとき、普通の状態のときに、他人に精神的に安らぎを与えたならば、同じように、あなた方が苦しんでいるときには安らぎを得られないけども、平静なときに、他人があなた方に安らぎを与えるだろう。そして、最も効果がないのが、あなた方が楽しいときに、相手に安らぎを与えた場合、これはあなた方が楽しいときに、楽しみと同時に安らぎを得るという結果が出てくる。

布施の最後、法施、この法施っていうのは何かというと、法というのはつまり観念という意味だね。この観念を、例えばだよ、もしあなた方が真理という観念



を周りに布施したならば、布教したならば、今生、あるいは未来際において、必ずやだれかがあなた方が困っているときに、真理というものを、あなた方に教えようとしてくれるだろう。そして、真理でもないけどもそれほど害のない観念というものを他人に吹き込んだならば、同じように未来際において同じ結果が出てくるだろう。そして、正しくない観念、あるいは正しくない宗教というものを、あなた方が周りにもし吹き込んだならば、同じように、ね、今生において、あるいは来世において、正しくない宗教、あるいは正しくない観念というものを周りから吹き込まれるだろう。

そして、この三つの布施は、物質の布施はまずグロス・ワールド（現象界）に影響すると。次に、ね、安らぎを与える布施がアストラル・ワールド（アストラル世界）に影響すると。そして、最後にこの観念的な布施がコーザル・ワールド（コーザル世界）にね、影響するわけだ。そして、このベースがね、しっかりできた段階で、次に五つの戒に入っていくわけだね。

◉不殺生──怒りと冷淡さの証明

で、この五つの戒というのもね、深い意味合いがあるわけだ。例えば、ね、殺すなかれという戒がある。生き物をたくさん殺すという背景には、自己保存の法則というものが働いている。そして、怒りのカルマというものが働いている。この自己保存の法則の裏側にある怒りのカルマというものは、これは炎だ、ね。精神的な炎を使って、現象界として、現実として殺生したならば、そのカルマはあなた方を同じようにね、その炎はあなた方を同じように地獄の世界で焼き尽くすだろうと。これが、殺生のカルマです。

そして、もしあなた方が生き物を慈しんだならば、殺さないで慈しんだならば、ね、逆にあなた方が今生において、あるいは未来際において、同じように周りの生き物から慈しまれるであろうと。こういうふうにスクリプチュア（経典）ではね、第一の戒について説いてるわけだ。

いや、そうではないという人がいるかもしれない。怒りではなくて冷淡な気持ちで、殺生をするんだという人もいるかもしれない。そのとおりだ。もちろん心

り地獄の世界に落ちる。その地獄の世界のどのパートに落ちるかというと、極寒の地獄だ。もうそこは、その寒さのために皮が破れ、やけどと同じように水ぶくれになるというような地獄です。そういうふうに経典ではいってるわけだね。まあこれは経典でいっているだけではなくて、わたしも実際に地獄の世界というものを見てきています。

の働きにはそういう要素もあるわけだ、ね。そして、その魂は同じように、やは

◉カルマ――三つの世界に現われるデータ

で、同じように四つの戒、盗むなかれ、愛のないセックスをするなかれ、嘘をつくなかれ、あるいは酒を飲むなかれとあるわけだけども、今日はね、あまり時間がないから、一応殺生で切るよ、一回。そしてね、アメリカの人というものはすごく論理的だから、なぜなしたカルマが返ってくるかということについてね、ちょっと話を移そうと考えています。あと四つの原因と結果については明日話すことにして。いいですか。

まず、わたしたちが思いを発したこと、あるいはイメージ、あるいは行為というものは、すべてコーザル世界にあるデータ・バンクに、そのデータが収集されるわけだ。その順番というものは、現象界からアストラルの世界を通ってコーザルの世界へ行くと、ね。

つまり、三面の透明な水があると考えよう、水がね。そして、行為というものは波なんだよ、波。わかるかな。例えば、殺生をしたとか、あるいはお布施をしたというと、そこに一つの波ができるんだ、波が。そうすると、ここに水面があって、これを波立たせると必ず、高い部分と低い部分が出てくると、ね。いいですか。そうすると、例えば行為したことは必ず高いパートを作り上げるんだよ。そして、結果というものはその反動で、低いパートのデータが降りてくるわけだ。そして、この現象界に現われる。あるいは、アストラル世界、コーザル世界に現われるわけだね。よろしいですか。

◇一九八八年一月三十日

◉偸盗から離れよ――つくられる心の豊かさ

　さあ、それでは昨日の続きから始めよう。昨日は、わたしたちが修行する上において、まずなさなければならないこと、これが三つの布施であると。そして、次にやらなければならないことが、五つの戒めを守らなければならないという話だったね。そして、五つの戒めの中で、殺生の説明まで終わったんだよね。

　昨日も説明したと思うけれども、アストラルやコーザルの、データの入れ方は波だったよね。そして、まあ正確な言い方をするとアストラルは波であると、コーザルは反射であると。そして、そのプラス・マイナスのデータの差し引きがちょうど一定しているという話だったよね。

　例えば、功徳を積めば波は高くなると。そして、悪業をなせば波は低くなると。例えば、もし楽しみというものが高い波だとするならば、その反動で必ず低い波が起きると。これは何かというと、普段、何もなさない状態、行為をしない状態



というものはプレーンだということだよね。

で、その理論で、次の不偸盗（ふちゅうとう）、盗んではいけないよということ、そして、その延長上にある、物を施しなさいということについて、考えなければならないと思うわけだけども、もともと盗みというものは、執着からきている。もし、わたしたちが一切のものに対して執着していなかったならば、盗む必要はない。

そして、盗んだならば必ず盗まれる。いや、そんなことはないと考えるかもしれない。それはそれでOKだ。盗まれないとしても、少なくとも物質的には恵まれない状態が出てくることはわかるよね。それは、どういうことかというと、盗みをなした。これは、そのとき一時的に物質的には何かを得るわけだ。何かを得るということは、波としては高くなるよね、当然。その反動で必ず、低い波が訪れると。そのとき、物質的欠乏が訪れるということになるよね。

だから、今度は逆にね、物を施したならば、そのときは低いポジションの波が起きるよね。その反動で今度は高いポジションの波が生じるよね。このときに物質的に豊かになるよね。

でね、問題なのはここだ。じゃあ、盗みをなしたときに、ハイ・ポジションになり、それから、次はロー・ポジションになると。このときは物質的に豊かではない。逆に、お布施をしたときに、例えばロー・ポジションになると。そして、その後ハイ・ポジションになると。これは同じではないかと考えるかもしれないけど、この二つには大きな違いがあるわけだね。その違いとは何かというと、心だね。

同じように、一方が豊か、一方が貧しいと。一方が貧しい、一方が豊かな状態に現象的にはなるわけだけども、心の働きはどうだろうか。いいことをなしたとき、人の心というものは、ね、うれしくなる。悪いことをなしたとき、人の心というものは暗くなる。つまり、たとえ条件としては、物質的には同じだとしても、心は違うわけだね。そしてわたしたちには意志、意識、それからこの現象界の幸福、つまり意志、意識の奥にある魂の幸福と、三つあるわけだけど、このグロス・ワールドの、現象界の、例えば物質的なものが同じだとしても、意志、意識の存在しているアストラル・ワールド、あるいはコーザル・ワールドの魂の状態はこ

の二つ、ね、この二つというのは、盗みをなしたときの豊かさ、あるいはお布施をして、その後返ってくる豊かさというものはね、違うわけだ。そうすると、コーザル、アストラル、現象界という、三つを足し合わせたときに、どちらが幸福といえるだろうか。そうすると、この持戒の二番目、盗むなかれと、その延長上にある施しなさいという意味がよくわかると思う。

◉邪淫を離れよ——結節を破るエネルギー

じゃあ次は、邪淫（じゃいん）するなかれと。邪淫するなかれということは、愛のないセックスをしてはいけないと。あるいは、エンライトメントするために、サルベーションするために、精を漏らしてはいけないという戒です。これについてはどういう理由が考えられるだろうか。

まず、セックスのときに使うエネルギーというものは、水元素のエネルギーを使ってるわけだね。これはチァクラとしては、スヴァディスターナ・チァクラを使っている。そして、このチァクラを使いすぎると、体質的にはまず、粘液体質

になる。そして精を漏らすならば、わたしたちの精液というものはクンダリニー・ヨーガのエネルギー源だから、いくら修行しても体が熱くならない。いくら修行しても、爆発的なエネルギーが上昇しないという結果を招くわけだね。

それはね、ここの枠にかかっているシヴァ神とパールヴァティー女神の結合の絵、これはチベット仏教では、グヤサマジャといってるわけだけども、この中にある、三つの顔の中の白い顔は、つまり無智、曖昧さと関係しているわけです。このグヤサマジャが、このシヴァ神が、なぜ三つの顔を持っているかというと、そのエネルギーを使って、成就していますよということを表わしているわけだよ。ところが、このエネルギーがもしなければ、なければということは、あなた方が浪費していれば、こういう状態にはなりませんよという意味でもあるわけだね。

もちろん、禁欲をするとね、精を漏らさないと、イライラしたり、あるいは、少し気が短くなったりする。ところが、エンライトメントするためには、そのエネルギーを上昇させて、例えばマニプーラの裏側にあるブラフマンの結節だとか、アナハタ・チァクラの裏側にあるヴィシュヌの結節だとか、アージュニァー・チァ

クラの裏側にある、シヴァの結節だとかを破らなければならないわけだ。言い方を換えるならば、強力なエネルギーがない限り、その結節を破ることはできないんだよね。

だから、成就するためには、強靭なる精力が必要であると。まあ言い方を換えるならば、強靭なる精力の持ち主は、少しくらいは精を漏らしてもいいけども、精力のない人は、精を漏らさないようにして蓄えて、そのエネルギーを爆発させて、サルベーションやエンライトメントが起きるんだよということを経典ではいっているわけだ。

◉愛を背景として——幸福を得るために

サルベーションや、エンライトメントを考えていない人は、セックスについてはどう考えたらいいかという問題が出てくる。これは簡単だね。愛のないセックスをしてはいけないということです。

じゃあ、なぜ愛のないセックスをしてはいけないのか。心の働きをちょっと見

てみようじゃないか。もし、わたしたちが愛のないセックスをするとね、快楽だけのために心は働き出す。そうすると、例えばわたしたちが他に対して、異性に対して快楽だけの見方しかできないとしたならば、先程の波の理論を考えてごらん。返ってくる現象は、快楽だけのために異性もわたしたちを見るようになる。そうすると、どういう結果が出てくるかと、ね。男性と女性の付き合いというものは、セックスだけでない。例えば、男性が女性を愛するというのは、男性にないパートがあるから愛するんだ。あるいは、女性が男性を愛するのは、女性にないパートを男性が持っているから愛するんだと一般的にいわれているよね。ところが、それが単に快楽だけのためのつながりだとしたならば、それは殺伐とした関係となろう。殺伐とした付き合いだとしたならば、それはわたしたちに幸福を与えるくれないよね、この現象界において。

いいね。だから、この三番目の邪淫するなかれというのは、ね、エンライトメントやサルベーションを目指している者は、できるだけ禁欲をしなさいと。そして、そうではなくて現世的な幸福を求めている人は、愛のないセックスをしては

いけないよという理論になるわけだ。

◉嘘をつくなかれ——タマスからの解放

じゃあ、次に嘘をつくなかれという戒はどうだろうか。嘘をついてはいけない。これはね、この大宇宙を動かしている、エネルギーが三つあるとヨーガでは説いているんだ。これは仏教も同じだ。その三つのエネルギーというのは、ここにあるグヤサマジャにも表われているように、スカイブルーがサットヴァ、サット・プラーナと。そして、白がタマス・プラーナだね。そして、赤がラジャス・プラーナといわれている。で、これは中心、スカイブルーが執着を表わし、この左側、白が無智、曖昧さを表わし、右側の赤が怒りを表わすといわれている。

そしてね、嘘をつくと、この白のタマスのエネルギーね、タマス・プラーナのエネルギーがわたしたちを取り巻くんだね。もし、そのタマスのエネルギーがわたしたちを取り巻いたならば、周りから自分を防御することはできる。防御というか、要するに見えなくすることはできる。この三つのエネルギーはラジャス、

タマス、そしてサットヴァと順番に次元が高くなっていくわけだけども、嘘をつくとね、タマス優位の世界が訪れるわけだね。タマスで覆い隠しているから、周りから見ると、あの人はいい人だといわれる。そういう自分と他人との関係が成り立つよね。

ところが、このタマスのエネルギーで覆い隠されるとね、自分自身も相手を見ることができないわけだよ、正確に。これは言い方を換えるならば、先程の波の関係と同じということもできるよね。だましたら、だまされると。

よって、嘘をつくなかれの背景にあるものは、タマスのエネルギーを撤退させるために、つまり、物事をクリアに見るために嘘をついてはいけないよと、経典ではいっているわけだ。そして、もう一つ付け加えるならば、嘘をつかない実践をするならば、あなた方が口に出したこと、あるいは思ったこと、これがね、ほとんど完璧に現実に現われるということになるだろう。



◉不飲酒の実践——意志、意識のコントロール

さあ、最後に、酒を飲むなかれだね。この理論は至って簡単だ。お酒を飲みすぎると、意志、あるいは意識が混沌とする。あるいは自分の思った方向に、意志や意識が働かなくなるというわけだね。ヨーガや仏教の根本的な狙いというものは、自分の意志や意識というものを魂のコントロール下に置くことです。そして、それらを管理して、この世で思いのままになる、あるいはアストラル世界で、アストラル・ボディーが思いのままと、コーザル世界で、コーザル・ボディーが思いのままになると、そういったことが狙いなわけだ。

ところが、アルコールを入れると、このアストラル世界における意志、意識というものが操縦不能になってくるんだね。そうすると、ヨーガの目的と反するわけだ。だから、できるならば酒はほどほどにしなければならない。飲まないでいいんだったら、飲むべきではないという理論がここに成り立つわけだね。

◇一九八八年一月三十一日

◉意志の極限——エネルギーをコントロールするために

さあ、今日の説法で最後になるわけだけども、昨日までは、まず布施、それから持戒について話したよね。今日は、意志の強化がわたしたちの人生にとってどのような働きをするか、それから、修行に対してどのような効果があるかについて話してみたいと考えている。

わたしたちは、布施によって素晴らしい功徳を積む。その素晴らしい功徳は、まず物質的な布施によって、このグロス・ワールドを浄化し、それから、安らぎの布施によってアストラル・ワールドを浄化し、それから、法施によってコーザル・ワールドを浄化する。そして、五つの戒めを守ることによって、ね、悪業を積まないようにするならば、わたしたちは少しずつ少しずつ純粋になってくるわけだね。そして、エネルギーが蓄えられると、ね。

で、まず現象界でエネルギーが満ちあふれ、次にアストラル世界にエネルギー

たちがもし意志の力なしに放っておいたならば、単に、変化身が夢の世界、この世ではないアストラルの世界で、楽しい思いをするに過ぎないわけだ。

ところが、この第三ステージの意志（忍辱）の訓練をなすことによってだ——意志というものはアストラル世界に存在しているわけだけども——その訓練をなすことによって、今まで蓄えてきた善業のエネルギーが一定方向に進むようになってくるわけだね。そして、この意志の極限というものは、わたしたちが功徳を還元して喜びとして返ってくるプロセスをまずシャットアウトする。そして、ただひたすら積み上げた功徳というものを、あなた方の修行の目的である、サルベーション、あるいはエンライトメントという方向に一気に放出する準備をするわけだ。

もちろん、わたしはサルベーションしなくてもいいと、あるいはエンライトメントしなくてもいいと考えている人は、例えばだよ、その意志の力を今生の人生の目標に使ったらならばどうなるかというと、もちろん、それは結果として、こ

の現象界に速やかに現われ出るだろう。

なぜ、そう言い切れるかというと、ここに一つのタイヤを考えよう。針で刺したくらいではパンクはしないようなね、厚いものを考えると。で、パンパンにそれは張っていると、ね。このタイヤに一つの穴を空けた場合と、たくさんの穴を空けた場合とでは、エネルギーの流れはどうなるか。たくさんの穴を空けるというのは、いろいろなわたしたちの欲求だね。一つの穴というのは、例えば人生の目標を一つに絞った場合の、今比喩として使っている。

そうすると、空気の流れというものは、当然一つしか穴がなければ、その方向に向かって、蓄えられた空気、つまりわたしたちの善業は一気に流れ出るわけだ。ところが、空気の出口がたくさんあると、エネルギーはいろんな方向に分散され、圧力の軽減は速まる。そして、エネルギーの流れも弱くなるわけだね。

何が言いたいかというと、この意志の極限というものは、エネルギーを一定方向に持って行くための訓練なんだ。そして、欲求をシャットアウトするための訓練なんだ。欲求というのは空気穴だったね。で、これが完成したならば、わたし

たちは自分が積み上げてきた功徳というものを、自分の意志する方向に流すことができるようになる。意志する方向に流すということは、この現象界において、ある程度のことは思いのままになるというわけだ。

◉意志の強化の実践——現象界に現われる結果

では、どのようにしたら意志の強化ができるんだと。これは、そんなに難しいことではないんだよ。これはね、あなた方が得になろうと、あるいは損になろうとね、まず心に思い、そしてイメージし、口に出したことを確実に実行するという訓練をすることです。

例えば一つの仕事があると。この仕事を、わたしは三日間でやり上げようと口に出したならば、ね、たとえ徹夜をしても三日間でやり上げると。どんなことがあっても三日間で一つの形を作り上げると。例えば、この事業に十万ドル投資しようと考えたならば、十万ドルを必ず投資すると。それが、例えば途中でだよ、あっ、これは失敗するんじゃないかと思ったとしてもやるわけだ。例えば、修行

を一日三時間、必ずやると決めたならば、どんなことがあっても三時間行なうと。それは、寝ないでも行なうと。この訓練を毎日毎日続けていったならば、そうだね、一年くらいかかるかもしれないけども、確実に意志は強化されているだろうね。

では、その意志の強化の結果として、何が起きるかというと、あなた方が思ったことが、即、現象界で実現するという形が起きてくるわけだ。これが、一月、二月、三月とね、訓練を続けているうちに、必ず結果が出てくる。初めのうちは、自己の行為も意志のコントロール下には一割とか二割とか三割しか置けないかもしれない。あなた方が、例えば現象を三割、意志のコントロール下に置いたとしたならばね、その三割はあなた方が意志したとおりに動くということになる。

同じように五割、あなた方が自分で決めたことを実践できるとしたならば、この現象界でも五割、あなた方の意志したことが現われる。そして、最後に十割、あなた方が意志のコントロール下にあなた方の行為というものを置いたならば、十割、この現象界に結果が現われるということになるんだよ。

◉精進――ポイントとなる帰依

そして、サルベーション、エンライトメントを求めている者は、次の精進のプロセスに入っていくわけだ。精進とは何かというと、修行に専念すると。つまり、ベースに膨大な功徳を積み、次に悪業を積まない条件をつくっていき、その蓄えたエネルギーを意志の力によって一定方向に使う訓練をなすと。そして、その意志がだよ、さあ、わたしは解脱しようと、わたしは悟りを開こうという方向にすべてのエネルギーを注ぎ込んだとき、精進のプロセスが始まるんだ。

この四番目にくる精進で、最もポイントとなるものは何かというと、グルに対して、あるいはシヴァ神に対してね、帰依ができているか、そして、グルやシヴァ神の意思というものを、自分の意思と置き換えられるかということがポイントとなるわけだ。なぜ、意志の強化のところで、自分のコントロール下においた意志の働きをだよ、グルやシヴァ神にオーバーラップしなければならないかというと、例えばわたし、例えばシヴァ神の世界にあなた方は没入していかなければならないわけだ。そうすると、そのベクトルの向かう方向を、わたしや、あるいはシヴァ

神の方向に向けるのが最も手っ取り早い方法なんだよね。

で、この精進の実践では、もう修行に関すること以外やらないわけだ。修行に関すること以外やらないということはどういうことかというと、例えばシッシャになると。そして、グルの意思、シヴァ神の意思というものを具体的に表現していくプロセスに入るわけだ。そして、その意志の働きが、二十四時間、グルに、あるいはシヴァ神にオーバーラップした段階で、瞑想修行に入っていくというわけだ。

布施から始まり、精進に至るまでのプロセスがだよ、百パーセントできている人は、もうその後の瞑想、そして悟り、あるいは解脱というものはそれほど難しいプロセスではないんだよ。なぜかというと、その人の内側はね、もう修行を始めたころの煩悩(ぼんのう)の塊であるその人ではなくて、シヴァ神や、あるいはグルと同じような心の状態になっているから、例えば瞑想のときのイニシエーションだって、意思が一致しているわけだから、イメージだって、オーバーラップさせることはそれほど難しくないと。最終的にはコーザル世界において、解脱に必要なグルの

純粋なデータを、プリントすることだってそれほど難しくないわけだね。

さあ、これで三日間通してね、布施から智慧に至るまでの概略を話したけれども、このプロセスというものが、それは、マハーヤーナ・システムといわれている一つの体系なんだね。これを完全に理解し、完全に実践するならば、いずれあなた方は最終的にはね、仏陀となるでしょう。あるいは、創造主となることができるでしょう。



第二話 カルマの傾向が世界をつくる！

「この心が、この世界へ PART-1」

◉カルマ――人生を決定する因果の法則

はい、では、今日のポア・セミナーに入ります。

まず、わたしたちは必ず死ぬものである。これはどうですか、正しいと思いますか、この定義は。

（信徒）はい。正しいと思います。

そして、わたしたちは生まれて今までの間に、社会的にも、環境的にも、あるいは対人関係的にも、もう既にいろいろな差ができている。例えば、ある人は幸福な人間関係であると。ある人は不幸な人間関係であると。ある人はお金持ちの

息子や娘として生まれたと。ある人は貧しい家庭の息子や娘として生まれたと、ね。ある人は社会的に、若くして高い地位に着いたと。あるいは、ある人はいくら頑張っても、社会の底辺を生きなければならないと。これはどうですか。正しいですか、正しくないですか。

（信徒）正しいです。

真理の教えの中では、これをカルマだといっています。そして、人がどんどん落ちていく過程としては、次のような例が挙げられよう。例えばね、ここに美しい女性がいた。そして、その女性は、中学、高校のころ、才知にあふれていたと。で、みんなからも、あの人は美しいし、頭もいいしと、あこがれられた。そして、大学を卒業して、一般の社会に出て、ね、意味のない快楽にふけって子供ができてしまった。そこで、例えば一人堕ろし、二人堕ろししたと、ね。あるいは、すごく優秀な青年がここにいたと。しかし、悪友のそそのかしによって、あるいは魔の働きによって、盗みをやることになった。そしていろんなものを盗み出した。で、それを覆い隠すために、心は愚鈍な状態になったと。

この結果は、どのようになるかというとだよ。いいですか。一般的には、ものの考えられない状態、記憶ができない状態に落ちるんだね。例えば、女性の初めの状態を人間界のカルマだとしようね。そうすると、次は動物のカルマである無智、無智とは何かというと、環境に流される、あるいは思考力がない状態だね、これを形成するんだよ。これは、必ずそのプロセスをたどります。次に、ただひたすら食べるようになる、そして物質に執着するようになります。これが餓鬼のカルマ、ね。そして最後は、カッカカッカと怒り、周りと争う、あるいは周りからいじめられる。ね、これは地獄のカルマだね。

◉予兆——「今」が暗示する来世

だから、あなた方が次の生で、どのような転生をするか、その兆しというものは、既に今の段階で現われているわけだ。例えば、意味もないのに毛嫌いする、毛嫌いをして怒る。これは地獄のカルマである、ね。例えば、少しの施しもできない、ただ自分のためだけに生きている、ガツガツ食らっていると。これは、餓

鬼のカルマであると、ね。この餓鬼のカルマについて少し説明を加えておかないと、間違いがあるかもしれない。

例えば、オウムのスタッフの場合、修行に入ってエネルギーが強くなると、マニプーラの炎がものすごく強くなる。その段階でガツガツ食べるわけだ。しかし、これは、一般的にいうところの餓鬼のカルマが出てきたとは考えない方がよろしい。なぜならば、彼らは無欲であるからだ。食べ物に対する若干の執着は残っているけども、例えば、お布施をしなさいと言ったら、彼らはお布施をするだろうし、それに対して執着がない。これは餓鬼のカルマがあるとはいわないんだね。そうではなくて、これもわたしのもの、あれもわたしのもの、それもわたしのものというものの考え方のある人は、必ずや次の生では餓鬼の世界に落ちると考えてよろしい。いいね。

そして、それから一ランク上がった状態、一ランク上がった状態とは何かというとね、ものが考えられない状態だ。例えば、犬の場合は棒切れを追いかけて、取って、くわえて帰ってくる。猫は一生懸命玉にじゃれていると。それと同じよ

うに、例えば、スポーツに夢中になっているとか、あるいは単に車でぶっ飛ばして夢中になっているとか、そういう心の働き、そのときに心が満足するような状態だとしたならば、それは無智のカルマに覆われていると考えていい。そうすると次は動物だ、ね。

あるいはね、怒りもそれほど強くない、貪(むさぼ)りもそれほど強くない、あるいは、ある程度真理もわかるし実践している、しかし、情のしがらみ、つまり執着の残っている人。例えば、他のものは布施できるんだけど、これを布施するのだけは嫌だとか、この人が好きで好きでたまらないんだという人ね。この人は、この執着を因としてだよ、次は人間界へ生まれ変わるわけだ。つまり、人間界に生まれ変わる条件というのは、執着です。

そして、ある程度の思考力もある。ある程度のお布施もできる。ある程度怒りの感情についてもコントロールできる。そして、情もある程度ね、必要なときには出てくるかもしれないけども、いつもというわけではない。しかし、自分よりも上の人を功徳によって越えるのではなくて、なんとしてでも蹴落として、その

人の上に立ちたいという人。こういう人は、阿修羅の世界に生まれ変わるわけだね。

そして、今の状態に満足している。すべてがそろっているという人。例えば、素敵な彼もいる、あるいは素敵な彼女もいる、いい家にも住んでいる、いい車もある、また、ある程度真理の実践もしている、適当に布施はしている、他の人に比べて怒りの感情もない、しかし、他に対する、本当の意味での哀れみのない人――地獄の世界があるんだと、餓鬼の世界があるんだと、動物の世界があるんだと、あるいは人間、阿修羅の世界があるんだということに気付かないで、今の生活に満足している人――この人は天界へ生まれ変わると。ね、これはだよ、あなた方が信じようと、信じまいと事実だ。

◉バルドーの経験――自己のカルマの理解

では、なぜ、それを真実だといえるかという問題が起きるね。これは、きちんとそれまでね、ベースができていてだよ、極厳の修行に入って百日あるいは百数

十日くらいになると、いろんな体験をし出す。そしてそのときに死の体験もする。このときにわかるんだよ。ね、いいですか。

まず、下から赤いエネルギーが上昇する。このときに、母親に関する感情が出てくる。あるいは母親に関する経験、あるいは女性としての経験が出てくる。出産とか愛情の経験だね。これは男性も同じように経験します。いいかな。そして上から白い光が差し込んでくるとき、白い光がドームのように降りてくるとき、次は父親の経験をするわけだね。男性的特質の経験、つまり性的な快楽を中心とした経験だ。

で、一般的には女性の場合、例えば父親とセックスをするヴィジョンだとか、あるいは弟や兄とセックスするヴィジョンが必ず出てきます。逆に、男性の場合はね、まあ姉妹がなければ別だけど、あれば、例えば妹や姉が出てくる、あるいは母親が出てきます。母親に対する強い強い執着が出てくるんだよ。そして、この二つの経験をしているとき、もうその人は女性でも男性でもないということになる。

そして、その後、黒い光が差し込んでくる。そこで自己のある程度のカルマというものを理解できるようになる。いいかな。そして、その状態の後、経典に書かれている、中間状態を経験するわけだ。中間状態ってわかるね、バルドーとか、あるいはわたしたちが下位アストラルといっている世界のことだね。そしてそこで、自分のイメージの世界、アストラルの世界がどのような働きをしているかを理解できるようになる。

例えば、性欲で引っかかっている者は、性欲の経験をたくさんさせられる。食欲で引っかかっている者は、食欲の経験をたくさんさせられる。あるいは、情で引っかかっている者は、情の経験をたくさんさせられる、ね。あるいは阿修羅で引っかかっている者は、闘争だ。あるいは天界で引っかかっている者は快適な生活がそこに待っている、ね。そして、その中間状態から、わたしたちは、自分に最も合ったカルマにのっとって転生をするわけだね。いいかな。

一九八八年七月三十一日　名古屋支部にて

第三話　カルマが決める来世の幸福

「天界――幸せ多き世界」

◉求め続けた法が今……

　わたしたちが欲六界の構成を理解することは、何をなせばどうなるのかという、つまり原因と結果の正確な把握につながるわけである。この正確な把握をしない限り、わたしたちは正しくない実践、つまり邪明見解の実践を行なうこととなる。まずわたしたちが、この三界をクリアに理解するためには、身・口・意の浄化が必要である。この身・口・意の浄化とは何かというと、まず土台としてなされる布施、そして持戒の徹底に尽きると。その上に、カルマを落とされる忍辱、そしてその浄化された器をよりいっそう浄化する二正勤二正断。この四つのプロセ

スをしっかりと通過した者が、正確に瞑想に入れば、サマディに導かれ、そして智慧へと到達するのである。

この智慧によって得た三界の経験、この三界の経験をもとにいろいろな仏典が説かれているわけである。ということは、この仏典の内容が大ざっぱに書かれている理由は、一つ一つを、例えば西洋の神秘学者、あるいは西洋の哲学者、あるいは西洋の霊能者といった者たちが書いている細かな描写をするならば、あまりにも膨大になりすぎるがために、簡単に描写されているのである。

これはどういうことかというと、つまりベースになっている基本的世界観の違い——基本的世界観の違いとは、西洋的な世界観がその東洋的世界観の一部であるということを踏まえるならば、よくわかるはずである。つまり、小さな器の内容を細かく説明して大量の本を出している、あるいは大量の表現をしているのが西洋的な神秘世界の内容であり、あまりにも大きいがためにその説明を簡単に述べている、それでいても膨大なのが要するに仏教観ということになる。

今わたしは、やっと天界について説き出した。この天界について説き出した理

由というのは、前回の東京の説法でも述べたとおり、多くの疑問が解けてきてるからである。そしてこの多くの疑問が解けてきている背景には、ここにいる信徒の皆さんがこの無明の日本の中にあって真理を求め、一生懸命功徳を積んでらっしゃると。その功徳に対しては、しっかりとしたサットヴァの答えを提供することによって、つまり皆さんの求めている世界観を提供することによって、カルマの法則というものは成立するということを理解していただければよくわかるはずである。

ということは、今やっと天界の話が始まったわけだから、この中のまた一部の方が一生懸命修行なさり、そしてその光が広大となれば、わたしの説く法も当然色界のもっと高いレベルの話、そして無色界の高いレベルの話を詳細に説くこととなろう。それがわたしの役目だからなのである。この天界の話のポイントは何をなせばどの天界へ生まれ変わるか、何をなせばあるいは三悪趣へ生まれ変わるかということなのである。

◉カルマはこのようにして返る

まず、その前にお話をしなければならないことがある。それはカルマの理法というものは、自作（じさ）でないということなのである。自作とは何かというと、自分のなした行為、その行為がダイレクトに結果を招くのではないということである。その行為の条件、そして対象、この三つが絡み合って、初めて正確な結果を招くのである。

これはどういうことかというと、例えば凸鏡、あるいは凹鏡という鏡二枚を想像していただきたい。そしてもう一枚は平面鏡である。三枚だね、だから。凸鏡というのは、このような形をなしていて自分自身を映すならば小さく見えると。凹鏡というのは大きく映ると。そして平面鏡というのは、大体身体の二倍映し出せると一般的にいわれてるわけだけど、これをちょっとインチキをして、一対一の関係というふうに考えましょう。

この凸鏡、平面鏡、凹鏡、この三者の、この三つの鏡の意味合いは何かというと、行為をなした対象、そして行為をなす者ということになる。そして、これに

距離、あるいは光の度合等が加わって、カルマの返りというものがはっきりと現われてくるわけである。それはどういうことかというと、例えば同じ人物が、その三枚の鏡の上に立ったとして、ある者は大きく映り、ある者は小さく映り、ある者は同じに映るということなのである。つまり、行為としてはその鏡から等距離に、つまり同じ距離に立っているにすぎないと。しかし、結果は違ってくると。

これは例えば、大変憎しみの強い人がいたとして、その人を思いっ切り殴ったと。もう一人は無智のためにボーッとしてる人がいたとして、思いっ切り殴ったと。もう一人は修行者でカルマを落とされたいと思っている人がいたとして、思いっ切り殴ったと。この三者においては、三者のカルマの返り方があるということなのである。

例えば、第一の例の憎しみの強い人は、殴ったがために身のカルマだけではなくて、相手の憎しみという強烈なカルマを受けてしまう。第二のパターンは、殴ったがためにその殴られた、殴ったというカルマだけではなく相手の無智を受けることになる。第三のパターンは、殴ったがために殴ったという行為と同時に殴ら

れた対象が、もし「ああ、カルマ落とされてありがとうございました」という思念をしたならば、それと同じように、殴られることによって、自分自身の修行が進むというカルマを積むことになる。この三者は三様で違うということである。
これは、例えば善業である布施に対しても同じである。相手の四無量心が広大であれば、その対象に対して布施をなせば、当然それは広大な形で返ってくる。あるいは相手が大変商売のうまい人であれば、当然商売がうまくなるという形で返ってくる。相手が智性が高ければ、当然智性が高いという形で返ってくる。相手が解脱に向かっていれば、当然解脱に向かうという形で向かってくる。しかし、なした布施、この布施の行為は同じであるということである。
このような形で現象を分析するならば、なぜ同じ行為を行なっているのに、結果が違うのかということが如実にわかるはずである。これを土台として経典を読んでいくならば、例えば『布施品』という経典があるわけだけど、その内容がよく理解できるはずである。そして、この一つ一つの現象を正確に分析するならば、何を持てば第一天界へ生まれ変わり、何をなせば第二天界へ生まれ変わり、何を

なせば第三天界へ生まれ変わり、どういう修行をなせば第四天界へ生まれ変わり、いかに成就すれば第五天界へ生まれ変わりということが理解できるはずである。そして、功徳と瞑想の修習(しゅじゅう)によって、第六天界へ生まれ変わるんだということも理解できるはずである。

◉天へ赴く

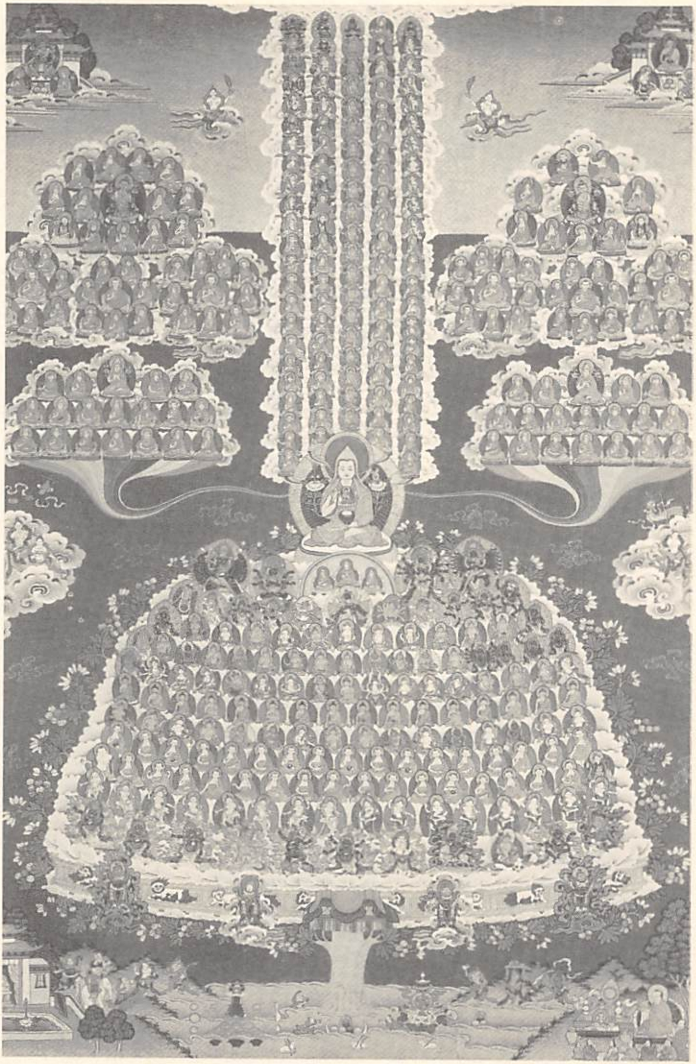
まず、この第一天界の条件は、ある意味で現世的な功徳というものが優位になってくる。その第一は、例えば会社、あるいは組織、あるいは国を堅固に統治し、すべての人に幸福を与えようと願い、努力し続けた者の行く世界。この第一天界は例えば日本、例えばアメリカ、例えばイギリス、例えば中国といった一つ一つの国に一人一人担当官が存在している。担当神が存在していると。そしてその国が順調に運べるように、運営ができるようにと統治をしている天界である。

第一天界の第二番目は、これは、すべての魂が物理的にしっかりと成長するようにということを管理している天界である。例えば今のように、木が切られ、砂

の漠化すると。あるいは生き物が大量に殺されると、いったのは、この第一天界の成長を担当する神々にとっては大変な悲しみであり、怒りを招くことになる。そして、もし生き物を慈しみ、殺生を離れ、修行し続けるならば、この四大天王の一人として生まれ変わることができるのである。

第一天界の第三番目、これは天空を司っている天界である。ここは、龍を支配している。そして例えば五穀豊饒の祭りを行なうとか、あるいはすべての魂のために、例えば気候が平静であってほしいと願うとか、あるいは実際に環境汚染の問題を解決するとか、そういうようなことをなす人、この人が来世第一天界のこの四大天王に生まれ変わるのである。

そして、第一天界の四番目、これは名医が、特に外科的な名医が転生する世界である。この世界は、庶民がケガをしないように、外傷に遭わないようにということを管轄している天界である。もちろん、これは『パーヤーシ経』にも詳しく載っているが、布施、そして持戒の厳守、この二つがこの天界で優位となる条件となる。



第二天界は有能神の天界である。この有能神の天界とは何かというと、もともと智性の高い人が、その智性を生かし、大いに救済に役立った場合、行ける天界である。例えば、商売のうまい人がその商売を利用して得た利益を布施すると、布施することによって救済計画が大いに進むと。あるいは、例えば何らかの特殊な技能を持っている人が、その技能を提供すると。つまり奉仕活動に入ると。それによって救済活動が成功すると。この、例えば第二番目の例は、絵をかく人が例えば救済計画に参加し、マンダラをかき、そのマンダラによって多くの人を救済したと。このような場合行く世界、これが第二天界なのである。

そして、第三天界は、これは——わたしは、この世界から上はちょっと若干詳しいんだけど——第三天界は、まず、ここへ生まれ変わった者は体が切れてもすぐ元に戻るとか、そういう決められた生命の間は死なない天界である。あるいは傷付いても、その傷が即座に癒えてしまうという特殊な天界なのである。そして、この天界は空を飛ぶことが自在であり、目的に対しては瞬時に移動できるという天界である。

で、ここの天界へ生まれ変わるためには、まず、真理、つまり死、生、この生と死、この生と死を超越する教えに多くの者を導く。例えば、今横浜では、数人、何人も導いてらっしゃる方がいるが、こういう人たちは第三天界のカルマをつくっているといえる。これはなぜかというと、この現世的な価値ではなく、死後の価値というものを提供することになるからである。そして、ここの王に生まれ変わるためには、ポアに熟達した魂が王として生まれ変わることになる。

つまり、この第三天界は完全に死と生を知り尽くしてる者、あるいはその死に対して、奉仕をなしてる者、この死に対して奉仕をなしてるとはどういうことかというと、人間の短い生だけではなく、長い長い死に対して、そして、次の生を決定する死に対して、しっかりと功徳を積んでる者の行く世界、これが第三天界なのである。

では、第四天界、この第四天界は除冷淡天といわれているわけだが、この第四天界とはどういう天界だろうかと。この天界はまず、嫌悪を滅尽し、博愛の心を持っている者。慈愛の心を持っている者。あるいは貪(むさぼ)りを離れ、布施の心を持っ

てる者。そして、この現世的な価値ではなく、しっかりと真理に作意し、教学をしている者。この三つの条件を備えた者が行く世界。しかも一、二、三を同時に内在している人。この人が行く世界である。

例えば仏典では、アナータピンディカ長者や、あるいはマッリカーという王妃ね――これはパセーナディー王の王妃ですが――こういう方々が行った世界である。そしてここにはマイトレーヤ如来が存在し、二千五百年前の仏陀釈迦牟尼の弟子たちが多く存在している。そして、ここはまた、一来果の魂の行く世界であるといわれています。

ということは、だいたい見当がついてきたと。第一天界は、ベーシックな生き方をしっかり行なえばいいんだなと。つまり観念的な生き方を行なえばいいんだなと。第二天界へ至るためには、とにかく自分の持っている才能をフルに生かして、救済活動の手伝いをすればいいんだなと。第三天界へ至るためにはとにかく導き、そして真理を、死に対してね、しっかりと理解することが必要なんだなと。第四天界に生まれ変わるためには、四無量心の実践が必要なんだなということに

なる。

そして、第五天界はこれは創造満足天といわれていて、いろいろなものを自分でつくり出してそこで満足する世界である。ここはまあ一種の神通の世界であると。しかし、ここでつくり出される世界は煩悩（ぼんのう）である。

では、第六天界はどうかというと、その煩悩に加えて功徳を有する魂が行く世界である。つまりどういうことかというと、他人があるいは他の魂が自分を満足させてくれると。その大きな功徳と同時に、その人も、あるいは周りの人も瞑想の力があって、そしてその神秘的な力によって満足させてくれると。この世界が第六天界である。

そして、この上にある神聖天、この神聖天は――まあ、今までオウム真理教の出版物では梵天（ぼんてん）といわれていた、この梵天を、ブラフマンを正確に訳すならば神聖、神の聖（ひじり）の天ということになります。この天界へ至るためには、まず煩悩を離れ、そしてひたすら瞑想を修習すると。これは仏教徒でなくても行ける、真理の実践者でなくても行ける世界である。煩悩さえなければ、行ける世界であると。

そして、これらの世界観、つまり、どの世界に行くためにはどういう修行が必要である、どの世界に生まれ変わるためには何々が必要であるということをしっかりと理解して修行を続けるならば、それを思念し続けるならば、必ずや来世その世界へ生まれ変わるはずである。それはちょうど、例えばスカイラインを買うために金額を知り、そしてその金額のためにひたすら努力をし、そしてそれを購入する。あるいは、アメリカ旅行するために、ひたすらまずアルファベットから学び、そして英会話のテープを買い込み、一生懸命英会話の練習をし、アメリカへ行き成功するというのと同じである。つまり、すべては原因があり結果があるわけだから、何を努力すればいいかをしっかりと把握すればよろしい。

◉落下！　地獄・餓鬼・動物への転生

では、そのための土台は何かというと、それは布施、そして持戒なのである。ではその布施、持戒を確実にしていくためには何をなせばいいのかというと、それは四つの預流支（よるし）なのである。では、この四つの預流支をなさなければどうなる

のかというと、それは三悪趣へ落ちるのであるということである。

なぜならば、地獄は完全に自と他の区別のはっきりした空間である。例えば、ここに一つ理解していただきたいことがある。それは、わたしたちがお風呂に入ると。そして三〇度から、まあ、四〇度ぐらいまで、お湯は気持ちいいと感じると。しかし、二〇度、一〇度になると冷たいと感じると。もちろん、五度、三度となると大変冷たいと感じ、入るのが苦痛である。あるいは、四二、三度まではいいかもしれないが、四五度、五〇、六〇となるともうそれは大変な苦痛であると。これはわたしたちのカルマが、ちょうど三〇度から四〇度の間に存在してるということを意味している。

ところがもし、嫌悪の強い人がいたらどうなるだろうかと。熱い、寒いという感覚が強ければ、その三〇度から四〇度の空間が、例えば三五度から三八度の空間へと狭められてしまう。すると、三〇度、三一度、三二度といった快適な温度もその魂にとっては大変な苦痛になる。地獄はこれと同じなのである。嫌悪の心を修習し続けるがために、その世界へ落ちると。そうするとその激烈な苦しみと



いうのは、その人の嫌悪によって増大された激烈な苦しみなのである。よって、この嫌悪を滅するということは、たとえ地獄へ転生してもその苦しみが軽減されると。あるいは、地獄へ転生しないカルマをつくることになる。

貪りも同じである、これは。この貪りというものはとめどもない。例えば、しっかりと瞑想してれば一日一食で、しかもそんなに量を多くとらなくても体は安定する。しかし、貪りの心があるとどんどん食べ、プラーナをそこに消耗させると。あるいは、物をどんどん集め、心をどんどんどんどん貪りの心に支配させてしまうと。ということは、例えば餓鬼の世界に物がないのかというと、そうではなくて若干はあるのである。しかし、そのある物質に対して心が満足せず、それより、例えば量を求め、あるいは質を求めるがゆえに、そこから餓鬼の世界というのは苦しむことになっているのである。

動物の無智も同じである。例えば、わざわざ天敵のいる、つまり自分自身の身体を傷付けられる対象のそばへ行き、恐怖し、おびえ、逃げると。あるいは、そこで殺されてしまうと。もし、動物が無智でなければ、そういう恐怖のないとこ

ろにまずしっかりと様子を見、例えば上から様子を見、下から様子を見、そして獲物を捕りに行き、そしてまた自分の空間へと帰れば恐怖はないはずである。ところが動物は無智なるがゆえに、その対象をしっかりと認識せず、そしてその苦しみの空間へと身体を運んでいってしまい、そしてその動物連鎖の恐怖に苦しむのである。

◉五蘊を神々の状態に

これらのことを理解すれば、わたしたちが嫌悪、貪り、無智から解放されることは、ひいては自分自身が楽になることであり、そして自分自身が幸福になることであることが理解できるはずである。このような形で地獄、餓鬼、動物を知り、あるいは天を知ることによって、この人間の生き方が決定されてくる。そして、この人間の生き方の最も理想的な生き方は、四つの預流支を背景として生きることである。四つの預流支を土台として生きることである。では、この四つの預流支とは何であろうか。

これは根本的なグル、あるいは仏陀、シヴァ大神に対して絶対的な信を持つこと。第二番目の、第二番目は真理に対して絶対的な信を持つこと。第三はサンガに対して、つまりオウム真理教では教団に対して信を持つこと。これが第一グループの預流支である。そして、第二グループの預流支は、多学の弟子になることである。多学の弟子になることとは、例えば送られてくる『マハーヤーナ』『真理の芽』、説法テープ、こういう説法会等を利用し、何度も何度も記憶修習をすること、そしてその記憶がパッと出てくるまで努力すること。これが第二グループの預流支である。そして、第三グループの預流支は何かというと、これはその記憶修習したものにのっとり思索をすることである。これが第三グループの預流支である。そして、第四グループの預流支は、その思索した結果、身・口・意にのっとり実践することである。

ということは、この第二グループの記憶修習、この多学というものは、正しい見解を身につけるということになる。つまり、聖なる八支の実践の中の第一の道ということになる。そして、第三のそれに基づき考えるということは、正思惟、

つまり正しく思索をするということになる。これは聖なる八支の実践の中の第二番目になる。そしてそれにのっとり身の行ないを統御し、口の行ないを統御し、心の働きを統御するということは、聖なる八支の正語、そして正行為、正生活、そして正精進、正記憶修習、そして最後の正サマディということを意味してるのである。ということは、この四つの預流支は、聖なる八支の実践のもっともっとそれをね、コンパクトにしたものなのである。

このような形で考えれば、何をなせば悪趣へ生まれ変わるのか、何をなせば天へ行き、何をなせば不幸になるのかが一目瞭然である。そして、何をなせば幸福になり、わたしたちのこの五蘊（ごうん）を少しずつ少しずつ神々の状態に変えていくこと、これが修行なのである。

わたしも皆さんと同じようにできるだけ長く生き、この五蘊をよりいっそう完全な形にしたいと考えています。

一九九一年二月三日　横浜支部にて

第四話　悪の報いは〝恐怖の清算〟

「戦慄の地獄があなたを待つ！」

◉修行の意味とは

今日は、少し強烈な話をしたいと思います。

なぜわたしが、この強烈な話を今日行なおうとしているのかというと、これを行なうことによって、あなた方の修行の意味というもの、これをもう一度確認できるという意味があるからです。

まあ、修行にはいろいろな段階があります。例えば、三悪趣に生まれたくないためと。例えば、解脱したいためと。例えば、天界へ行って、幸福な生活を送りたいためと。あるいは、多くの人々のために、多くの人々が本当の意味で自由で

幸福な生活を送れるようになるためにといったような、いろいろな目的があって、ここに集まっている人たちは修行をしているはずです。

そして、例えばその最終地点にある、わたしは多くの人々のために修行をしているんだという人は、今日のわたしの講話は単に知識として受け入れればよろしい。しかし、もし修行の意義というものがわからず修行している人は、今日わたしの話す話の内容を聴いて、十分にその真偽というものを検討してください。

◉カルマを背負う者たち

イエス・キリストが、みんなのカルマをしょって十字架にかけられたという話があります。まあわたしは、イエス・キリストが十字架をしょって殺されたというのは、あまり信じていない。なぜならば、その後の世界史の展開を見ると、精神性においては、よりいっそう悲惨なものになっているからである。

しかし、カルマをしょうという行為そのものは成立するといえるでしょう。しかもそれは、第一天界や第二天界の生命体、つまり四天王衆天や、あるいは三十

三天、あるいは天界の王といわれているインドラでも、そのカルマをしょうことはできないんだということを、ここにまず付け加えておかなければならない。そして、人間界のカルマをしょうことのできるもの、それは夜摩天からである。

では、なぜそういえるのかといったら、夜摩天はわたしたちを罰します。そして、ある者は地獄へ、ある者は餓鬼へと落とされると。でも、落とす裁きを行なう者、これは当然その生き物たちのカルマをしょわなければならない。あるいは、それに従事する獄卒たちは、当然そのカルマを受けなければならない。

君たちも知ってのとおり、マハー・ケイマ大師はたくさんのシャクティーパットを行ない、そしてたくさんのカルマをしょった。そして乱れた。

例えばこれは、マハー・マーヤ大師、あるいはマイトレーヤ大師も、シークレット・ヨーガに集中し、相手のザンゲを受けるだけで、同じようにカルマをしょう。そして、今回マハー・ケイマ大師、あるいはマハー・マーヤ大師、あるいはカーリー（尊師の次女）――こういう子たち、つまりわたしの身近にいる人たちから、わたしはステージを引き上げようと考え、いろいろと修行させている。その修行

の一つに「ヴァジラヤーナのザンゲ」がある。そして、わたしはあなた方と違い、容赦なく殴り付ける。そして、わたしがカーリーを叩いた後の経験をまず話すことにしましょう。

◉カルマの実態とは

カーリーに対してヴァジラヤーナのザンゲを十四時間やらせたことがある。このときに、わたしは二時間指導をした。そして、そのうちの一時間は、ほとんど竹刀で力一杯お尻を殴り付けるという作業を繰り返した。彼女はほとんど蓮華座（れんげざ）を組むこともできず、そして詞章を読むこともできなかった。そして、泣き続けた。

ところが、三回目からは――三回目から四時間に落として、自分でやらせたわけだけどもね――一人で蓮華座を組み、四時間集中し続け、ヴァジラヤーナのザンゲを続けた。そして、わたしはどうなったかというと、叩いた後、そのまま内熱が出――内熱というのは、ナーディーに詰まりが起きて生ずるものだが――そ

の熱によって一日苦しんだ。しかし、まあ今まだ少し残ってはいるけども、マントラ瞑想、あるいは思索をすることによって、抜け出すことができた。ということは、カーリーのカルマがわたしに移ったんだということだ。

今、わたしはオウム真理教に対して行なわれている、呪詛（じゅそ）を含めたいろいろなエネルギーを一つ一つ切っています。そしてそのためには、まずステージの高いといわれている人——マハー・ケイマ大師、マハー・マーヤ大師、マイトレーヤ大師、あるいは家族あたりから、集中的にエネルギーを変えていくこと、心の状態を変化させていくことが先決だと考え、それにかかりきりになっている。

そして今、わたしがこの比喩をあなた方に提示した理由というものは、なぜわたしだけが——まあその他に叩いた人たちもいるわけだけどもね——カーリーを担当して、なぜわたしだけがその日にカルマが返ってきたかと。それは、わたしのステージが低いから返ってきたのだろうか。それとも、わたしの苦の総量が限界点に達しているから返ってきたのだろうか。それとも、わたしの器が小さいから返ってきたのだろうか。これは、そうではないといえる。

つまり、凡夫であればあるほど、そのカルマの返りは遅いということがいえると。なぜならば、あなた方も知ってのとおり、人間を構成する三つの要素、ラジャス、タマス、サットヴァの中で、無智を構成しているもの、これはタマスである。そして、これは現象を遅らせる働きがある。それは知っているね。どうですか。そして、修行者になり、特にザンゲの瞑想その他を行なうことにより、現象が早く返り、そしてそのカルマの返る比というものは拡大されず、一対一、あるいは一対〇・一といったような形で返るようになる。それもわかるね。早く返れば返るほど、そのカルマというものは早く清算される。これはわかるね。そして、その状態を自分の中で体得すると、カルマの実態というもの、そして何をなせば救済することができ、何をなさなければ救済できないのかという実感を持つことができるようになります。

◉なしたことが返る——変遷する地獄の責苦

そして、そのわたしの経験、それから瞑想体験から、あなた方に地獄というも

のがどのような形で形成されているのかについて、これから少し話をしたいと思います。

まず、仏典ではどのような記述があるだろうかと考えた場合、あなた方も知ってのとおり、三叉の矛で、両足そして肛門から突き刺され、火であぶられる。あるいは、針の上を歩かされる。あるいは、熱い鉄板の中を歩かされる。あるいは、鍋の中にものすごく沸騰したお湯が入っていて、その中で煮られる。あるいは、切り裂かれるといったような記述があるのを知っているだろう。どうだ、これは。

そして、この地獄そのものは、二千五百年前の地獄であるというふうに理解しなさい。それは、こういう理由からだ。この欲六界を構成しているもののデータというものは、どうだ、コーザルの世界に存在しているといえないか。ということは、今の世界を投影するならば、そしてわたしたちのなしたことを検討するならば、地獄というものは、形が変わって当然だね。どうだ。

二千五百年前に、果たして電子レンジがあっただろうか。あるいは、二千五百年前に殺虫剤があっただろうか。よく考えてみよう。



まず二千五百年前の調理法、例えばこれは、貝類などは今と同じように生きたまま放り込み、煮るだろう。どうだ。ということは、これと釜ゆでの刑というものは、全く矛盾しない因と果ではないか。どうだそれは。あるいは、生きたまま串刺しにして焼くという作業、これを行なうだろう。こういう食べ方もあるよね、どうだ。あるいは、生きたままの魚を活け作りと称して切り裂き、そしてそれを食べる。どうだ、これは。あるいは、生きたままのエビの皮をむき、そして——あれは少し酒につけるのかな——それを口に放り込み、そのピンピンとしたエビの動きを舌で楽しみ、食べる。どうだ、これは。あるいは、生きたままのものを鉄板で焼く。どうだこれは。

ここらへんは、今も二千五百年前もあってもおかしくないね。どうだ。そして、当然カルマは一に対して一返るわけだから、その地獄の表現というものが、同じような形で表現されたとしてもおかしくはないよね。だとするならば、この地獄の記述というものは正しいと考えていいんじゃないか。どうだ。

では、現代の地獄はどうだろうか。

例えば、生き物に対して爆竹を突っ込み、火をつけ、爆破させる。こういう殺生をした人もいる。まあこの中にもいるだろう。どうだ。こういう人たちの行く地獄はどういう地獄だ。獄卒が肛門にダイナマイトを打ち込み、火をつけ、爆破させる。

例えば、堕胎はどうだ。堕胎は子宮に棒を突っ込み、胎児をぐじゃぐじゃにして引き出す。これはちょうど、地獄も科学が進んでいるだろうから、きっとミキサーの中に放り込まれ、ぐじゃぐじゃにされ、殺されると。あるいは、まだ時代遅れであるならば、すり鉢かもしれない。どうだ。

例えば、「シュッとひと振りキンチョール」と。殺虫剤によって虫を殺す。その殺虫剤によって死ぬときの虫の苦しみを考えたならば、どうだ。同じように、獄卒にシュッとひと振りされて、もがきながら死んでいく。それを何度も繰り返さなくてはならない。どうだ。

◉カルマ——確実に存在する因と果

そして、君たちは自己の過去を振り返りなさい。自己の過去において、そういうカルマをなしたことがあるのかどうかを検討しなさい。しかもそれは、心の単純なる喜びとして、弱いものを虐待する心の働きとして経験したのだということを考えなければならない。

そして、今の世の中は、よりいっそう物質化し、生と死というものの区別をはっきりとつけ、自分たちとは一切関係ないような形で社会を運営していこうとしている。その典型的な例が、あなた方も知ってのとおり、日本人のほとんどの人が病院で死ぬということだ。そして、断末魔の苦しみというものを見ることができないということだ。

わたしは地獄を見たことがある。地獄を経験したことがある。そして、実際にこの世において、弟子たちを心を込めて叩くことによって、そのカルマが体に返ってくる。

では、麻原の言っているとおり、行為のカルマというもの、この行為のカルマ

というものが返ってくるんだったら、ヴァジラヤーナの考え方と矛盾するではないかと、叩かない方がいいではないかと考える人もいるかもしれない。そこは逆に心の問題である。わたしは思念をしながら叩いている。修行しろよと。そして魂を成熟させろよと。早く今の状態を乗り越えろよと。そして、叩く。当然、わたしの体にそのカルマは返ってくる。

しかし、それによって相手は確実に、先程も言ったとおり、たったの二日間で、ほとんど座れなかったカーリーが四時間連続で蓮華座（れんげざ）を組み——まあ組み替え、組み替えではあるけれども——組み続け、詞章を休むことなく唱え続けられるようになった。そしてそれだけではなく、オウム真理教にかけられている呪詛、これが少しずつ少しずつ弱まってきている。そしてそれだけではなく、わたし自体が、どんどんどんどん瞑想しやすくなってきている。これは何を意味しているかと。肉体は確かにカルマを受けた。しかし、心はそれによってよりいっそう目的を完遂できるようになってきているということである。

しかし、凡夫は自己のことしか考えることができない。目先のことしか考える

ことができない。よって、凡夫である以上、例えば愛を持って罰することもできないし、叩くこともできない。よって地獄に落ち、その地獄の苦しみというものは、何ら彼らの精神的成長にとってプラスになるものではないだろう。それは、第三天界の夜摩天(やまてん)も、同じように、ただ裁くことしか考えていないからである。

◉苦悩の世界を離れよ

わたしがここであなた方に今何を言いたいか。最低三悪趣にだけは生まれないようにしなければならない。そして、そのために修行があるんだということを理解しなければならない。できたら、本当の意味での解脱をしなければならない。なぜならば、いかに高い世界に生まれ変わったとしても、その高い世界において真理に巡り合える確率が果たして何パーセントあるか、それは疑問だからである。どんなに功徳を積んでいたとしても、それは、例えば百億円あろうと一千億円あろうと、そのお金に利息が付かず、日々使っていれば、必ずいつかはなくなってしまうのと同じである。そして、隠されている三悪趣への道に必ず落ちることに

なる。
　そしてわたしは、よく修行から現世に帰ることを“落ちる”という言葉を使っている。そして、『南伝大蔵経』においても、仏陀釈迦牟尼（ぶっだしゃかむに）は、「下向（げこう）」――下へ向かう、つまり“落ちる”と同じ意味の言葉を使っているということだ。そしてここにおいても、同じように親族が反対し、現世へ引き戻そうとする。そして、あらゆることが行なわれた。今の時代は、そんな状態の比ではない。そして、わたしはそれについて、大変いいことだと考えている。なぜならば、わたしに最後の一つの選択しか与えてくれなくなったからだ。
　タントラ・ヴァジラヤーナにおいて、四つの選択肢がある。第一は、相手を幸福にする、そのための修行法を伝授するということだ。第二は、相手に繁栄を与える、そのための修行法を伝授するということだ。そして、第三と第四をここで話せないことは残念だが、四つの選択肢があるということだ。
　君たちは、少なくとも三悪趣に落ちないように。そして、解脱をし、この欲界の苦悩から解放され、そして、本当の意味での自由・幸福を味わっていただきた

いと考えています。

今日、わたしが地獄の話をしたのは、この現世においても、君たちの意識状態が鮮明になれば、カルマの法則というものが理解できるということを話したかったからである。そして、地獄というものは、きちんと存在しているんだということを話したかったからである。この現象界は、心の働きも含めて、物理的な法則で成り立っていると理解してよろしい。

一九九〇年三月十三日　富士山総本部にて

第五話　証明！カルマの法則

「芸達者の猿の前生は……」

◉釈迦牟尼の話――役者たちの転生

一つ、偉大な、釈迦牟尼の話があるね。わたしは、釈迦牟尼の偉大さをいろいろと証明しているけども、『阿含経典』の中に「聚落主相応（じゅらくしゅそうおう）」というのがある。その中で、歌舞伎役者について法を説いていらっしゃるところがある。インドというのは、カースト制が昔からあって、歌舞伎役者は歌舞伎役者で、一つの村を形成している。その村を形成している村の長、つまり、一番上の人だ。この人が釈迦牟尼のところに来ました。そうして、釈迦牟尼に、こう聞いているわけです。

「先祖代々、わたしたちは皆さんを喜ばせている、歓喜させている。だから、わ

たしたちは〈吉祥〉あるいは〈喜楽〉という天界へ行けるそうですけども、どうでしょうか。」
と。それを三度聞いて、釈迦牟尼は、
「わたしに、そういうことは聞いてはいけない。」
と三度返答していらっしゃる。そして、四度目に、
「じゃあ、わかった。村の長よ、話そう。昔から人間というものは、怒り、貪り、そして、無智、あるいは愚智に覆われていた。そして、役者というものが現われて、怒りの場面を演じると、それによって凡夫たちは、ここではこう怒ればいいんだなと考えて、怒りのエネルギーがいっそう強くなった。あるいは、貪りの場面を演じると、凡夫はそれを見て、ここの場面ではこう貪ればいいんだなということで、いっそう貪りが強くなった。あるいは愚智を演じる、あるいは真理を否定する、無智を演じるということによって、凡夫は、ここの場面ではこう演技すればいいんだなと、いっそう、そのエネルギーが強くなった。だから、村の長よ、役者は〈吉祥〉という、あるいは〈喜楽〉という地獄へ落ちるんだよ。そして、

言い換えるならば、それは地獄と動物界である。」

と言ってらっしゃるんだよ。いいかな。

じゃあ、わたしは、どうやってそれを証明しようとするのか。これはポイントだね。

これはちょうど、わたしの「水中エアータイト・サマディ」のときだったかな。新聞にね、猿のことが書かれていたんだよ。猿には、旧型の猿と新型の猿がいると。あれは南アメリカだったと思います。新型の猿というのはね、すごく芝居がうまいんだって。泣きまねをしたり、とにかく芝居がうまいんだそうだ。先程言ったように、役者の転生には地獄の道と動物の道があると釈迦牟尼はお説きになっているよね。ということは、彼らは人間だったことがあるんだということだよね。そこで役者を演じていて、無智なるがために、そのカルマによって猿に転生したんだということがいえるわけです。どうですか、これは。ということは、一つの動物の世界において、役者がいるとしたならば、もっとひどいのは、きっと地獄に落ちているよね。わたしがあなた方に提示できる例というのは、そういうこと

しかない。
そして話を戻すよ。あなた方が十の戒のうち、少なくとも五つの戒をできるだけ実践したならば、他の人よりは少しはいい世界へ行けるだろうと保証できようね。もちろん、すべての戒を完璧に実践したならば、少しの罪もなさないように実践したならば、より高い世界へ、あなた方が飛翔することは間違いないでしょう。いいですか。

一九八八年三月二十七日　東京本部にて



著名人篇

◎掛布選手は、なぜあの若さで引退しなければならなかったのか

掛布雅之といえば、ミスタータイガースともて騒がれた、プロ野球阪神タイガースの元有力選手。この掛布選手は、なぜあまりにも早く球界を去らなければならなかったのだろうか。

それは、なんと、大々的に放映されたテレビコマーシャル、〝ハエハエ、カカカ、キンチョール〟に端を発するものと思われる。これをカルマの法則に当てはめて考えてみると、殺虫剤のコマーシャルは、地獄のカルマとなる殺生を推奨するという大悪業となるからである。

この地獄のカルマは、肉体的な痛み、また他から傷付けられるといった形で返ってくる。

掛布選手の場合は、まず八六年四月、左手首に死球を受け、左手を骨折。翌月には打球を右肩に受け、右肩間接挫傷。復帰して直後、同年六月には打球処理の際、左手親指剥離骨折に見舞われることになる。翌八七年は、腰痛で二軍落ちなど、明らかに地獄のカルマが顕現し出したようである。

そして、八八年七月、左ひざじん帯付着部炎を理由に引退となる。

◎芸能評論家の口のカルマは……

〝日本で二番目の芸能評論家〟加東康一さんが、昨年五月、癌で逝った。

「芸能界のご意見番」と評された加東さんの舌癌が発見されたのは、一昨年一月。その後、五カ月も仕事を続け、手術を受けたのは

実証――こんなところにもカルマの法則が！

同年六月のこと。この手術により舌と声帯を全摘出し、命ともいえる弁舌は断たれた。

これは、明らかに口のカルマが舌に出たといえる。

◎桶狭間の戦いと本能寺の変

織田信長は、一五五一年、父信秀の死後家督を継ぎ、一五六〇年、桶狭間（おけはざま）の戦いでは、当時有力であった今川義元を破る。この桶狭間の戦いも奇襲攻撃であったが、その後も神速果敢に行動し、次々と勢力を拡大していった。しかし、一五八二年、家臣である明智光秀に襲撃され（本能寺の変）、四十九年の生涯を閉じた。

これは、奇襲した者は、同じように奇襲されるというカルマの法則に当てはまっている。



第二章　どのようにカルマを理解するか？

あなた方がここにいて、もしだよ、あなた方が真理に巡り合い、真理を実践し、真理を伝播したら、つまり広めたとしようね、このカルマは一体どういうふうな形で返ってくるだろう。

あなた方が来世において、あるいは未来際において、いろんな転生を繰り返すときに、もし今生で強引に真理だと言って押し付けた人は、今度は自分が苦しんでいるときに、強引に真理に導かれるだろう。

それから、柔らかく、ここに真理がありますよ、とアプローチしている人は、あなた方が未来においてね、苦しんでいるとき、ここに真理がありますよと、柔らかくアプローチされるだろう。

あるいは、真理というのは、自分たちだけのものである、人に言ったら恥ずかしいと考えてる人は、素晴らしい徳が切れて、未来際において苦しんでいるとき、あなた方の周りの中でね、真理を実践している人がいたとしても、あなた方に真理は回って来ないだろう。

すべては、あなた方のなしたこと、あなた方の語ったこと、あなた方の思った

こと、この三つの原因によってしか生じないんだということを考えましょう。

例えば、あなた方の親が、あるいは、あなた方の夫が、あなた方の子供が、あなた方を非難したとしたならば、あるいは、暴力を振るったとしたならば、わたしは過去において、同じような条件で、暴力を振るったんだと考えましょう。

あるいは、友人が、親戚が、あなた方を罵倒したとしたならば、罵ったとしたならば、過去において、わたしは、同じ条件で罵倒したり、罵ったりしたんだと考えましょう。

あるいは、少し力がついて、自分によからぬ思いを持ってる人がたくさんいるなということに気付いたとしたならば、わたしは過去において、たくさんのよからぬ思いを持ったんだと考えましょう。

第一話　悪因が出尽くせば、善因のみ

「幸福は五蘊の浄化から」

◉アナータピンディカ長者の布施

これはおそらく、来月の信徒用『マハーヤーナ』に載る『南伝大蔵経』の中に詳しく載っている内容だと思うから、しっかり読むようにしてほしいんだけどね、皆さんは、アナータピンディカ長者というのをご存じだろうか。彼は仏陀釈迦牟尼のために、仏陀釈迦牟尼の救済計画のために、そうだね、今でいくとどれぐらいになるのかな、ものすごい金額をお布施なさった方だ。まあ、何十億、何百億といってもいいのかもしれない。

皆さんの考え方の中には、どうですか、これだけ布施をするといいことがどん

どん返ってくるというふうに考えないだろうか。実はアナータピンディカ長者は、仏陀に帰依し、サーリプッタに帰依し、そしてそれから仕事をしなくなったと。仕事をしないとはどういうことかというと、財施と同時に朝、昼、正確にいうと早朝、それから朝食後、そして夕方とこの三回、奉仕作業に出向かれたそうだ。つまり財施、それから奉仕行という二つを徹底的に行なわれた方なんだね。で、毎日五百人の比丘、つまり釈迦牟尼の弟子たちに食の供養をなさり、衣服、医薬品、それから塗香（ずこう）、つまり香だね、等のお布施をなさった方だ。

で、どんなに大金持ちであっても、こういう生活を続け、仕事をしなかったら、どんどん経済的に貧しくなると。しかもその上に、彼は貸したお金を一切取り立てない主義だったそうだから、そのお金は返ってこないと。そして、余力の財産である金、まあ、一億数千枚というふうに考えてください。これを堤防に埋めていたら川が決壊し、それが沈んだと。ここで問題なのは、アナータピンディカ長者が、仏陀に帰依していたときにその現象がすべて起きていると。

◉四階の女神の話

そして、アナータピンディカ長者の家は八階建てだったそうだが、その四階に女神が住んでいたと。この女神は仏陀の弟子たちが来ると、徳の差によってその空間に生活することができず、必ずその空間から出て行かなければならないと。で、まあ、いろいろとアナータピンディカ長者の周りの者をたきつけたり、あるいはアナータピンディカ長者に対してもクレームを付けたと。ところが、そういう女神は必要ないから出て行きなさいという話になると。

このときがアナータピンディカ長者にとっては、最も経済的に悪い状態のときであると。つまり、生きていけるかいけないかわからない状態のときに、それでも彼は供養し続けたと。そして、この女神は住むところがないから守護神、つまり地神だね、地の神にお願いして、アナータピンディカ長者に謝って、もう一回その四階に住まわせてくれと、頼んでくれという話をする。ところが、地神は、仏陀あるいは比丘衆の功徳を知ってるから、そういうことはできないよと。

次に四天王衆天のところへ行く。それも断わられる。次に、三十三天の王であ



るインドラのとこに行くと。で、インドラはそこで女神を諭すと。あなたよりずっと徳の高い者たちの集まりである仏陀とそして比丘たちに対してそういう真理をねじ曲げたような難詰（なんきつ）をしてはならないと。あなたが帰る道はただ一つしかないと。それは堤防決壊によって、川底に沈んでいる一億数千枚の金貨と、それから取り立てることのできない金貨一億数千枚と、それからもう一つ今持ち主がもういない一億数千枚の金貨、合わせてこの五億数千枚になるわけだけど、その五億数千枚の金貨を持って、金庫を満たし、わびなさいと。

で、女神はその金貨の取り立て、あるいは川底に沈んでいる金貨、あるいは持ち主のない金貨等を一夜にして回収し、そしてそれを金庫に、アナータピンディカ長者の金庫に満たすと。で、アナータピンディカ長者のところに行き、わびを入れると。普通はここで凡夫だったら喜ぶ。ところがアナータピンディカ長者は法にのっとり、つまり仏陀釈迦牟尼のところにその女神を連れて行き、そして、どのようにしたらいいかという話をご相談なさると。仏陀釈迦牟尼はそれに対して一つの法をね、もってお答えなさるわけだ。

◉仏教の長いタイムスケール

つまりそれは何かというと、例えば今現在、悪い現象が起きているから、それは悪であろうかと、それはその人にとって、本当に悪い現象なのだろうかと。つまりそれは善因が満ちるまでは途中において悪い現象が起きるんだよと。あるいは今いい状態であっても、悪因が果を生じるまではいい現象が起きてるかのように見えるんだと。ね。

つまりどういうことかというと、アナータピンディカ長者がどんどん貧しくなると。それは、仏教的見方からいうならば、今までなした悪業の清算の時期であると。それと同時に、アナータピンディカ長者が積んでいた功徳、これはいつか結果を招くであろうと。それが、女神が集めてきた金貨ということになるわけだけども。しかもそれだけではなくて、その徳によって、アナータピンディカ長者は第四天界である兜率天（とそってん）へ生まれ変わると。つまりタイムスケールが大変長いわけだね。

◉五蘊のけがれを善因に変える

これは、わたしの修行の途上にもいろんな現象が起きてる。それはもうまさに苦しみの連続であったと。客観的に見たらね。しかしわたしは、求道心というのは全く揺らぐことがなかった。そしてそれだけではなくて、逆の言い方をすれば一つの快感すらおぼえていた。それは何かというと、きっとわたしの中に根付いている修行者としてのカルマが、今まさにカルマを落としている時期であると、このカルマはいずれ落ち切ると。そして落ちた後には、今までわたしがなしてきた善因の果しか出てこないんだと。ね。そして、仏教というものは本質的にはわたしたちの肉体、感覚、そしてイメージ、意志、意識というものをすべて善因、善果に変えていく修行であるということを理解しなければならない。

ということは、当然、その五蘊（ごうん）のけがれを洗濯するとき、特にその洗濯をするね、洗剤が強力であれば強力であるほど、その垢というものはどんどん浮き出てくる。そしてその浮き出てくるものをよしとするか悪しとするかである。一般的には目先の利益しか考えないから悪しとする。しかし、もし、わたしたちの内側

に苦しみの因がないとするならば、それはいかなる状況であろうとも苦しまないはずである。

わたしが何を言いたいか、それは本質的にはあなた方自体のカルマは必ず現象化するんだということ。そしてその現象化したカルマの状態を見て判断するのではなく、もっと原則的なものを見なさいよということである。

先程述べたアナータピンディカ長者が、なぜではそのようなどんどん貧しくなっていく過程において苦しまなかったのかというと、それはダンマ、つまり法というものが彼の中に根付いていたからである。しかもそれだけではなくて、彼のカルマがつまり前生、前々生、前前々生というカルマがそれをよしとするというか、それこそ正しい生き方なんだということを知っていたからであるといわざるを得ない。

◉在家の八つの功徳

在家の功徳というものは八つある。その中の三つは、仏陀に対して布施し、供

養すること。真理に対して布施し、供養すること。そして、仏陀の弟子たちに対して布施し、供養することである。これが三つだ。

残りの五つは何かというと、殺生をせず生き物を慈しむと。これによって徳の漏れを防ぎ、心を豊かにすると。盗みを働かず、周りを安心させ、そして布施すると。これによって心を豊かにすると。よこしまなセックスをしない。それによって心にけがれを持たず、周りとのトラブルを避け、親しみある人生を送ると。嘘をつかず真実を語り、それにより周りの者に安らぎを与えると。そして周りの者が自分自身を信頼してくれるような環境づくりをすると。酒、ビール、あるいはブドウ酒といったような穀物酒、あるいは果実酒といったようなものを飲まないと。なぜならば、飲めば、その人の心は乱れ、ある人は興奮し、ある人は沈み、そしてそれにより心の本質を見失い、周りとのトラブルを起こすと。よってそれを飲まないことにより、絶えず変わらない心の状態で周りと接すると。

そして、この前者三つは、物理的な布施、後者五つは物理的プラス精神的な布施ということになる。この八つの布施をもって、八つの功徳をもって在家の功徳

ということができる。

◉八つの功徳の果報

人は必ず死ぬ。絶対死ぬ。死は避けられない。これは、いかなる者がそれを否定しようとも必ず死というものはやってくる。そして、その死に際して何をもって最高の船、つまり最高の来世の乗り物とするかというと、在家の場合、この八つの功徳ということになる。

例えばここにある実業家がいて、五十億、百億といったような財産を所有し、死んでいったとしよう。しかし、それはちょうどこのような比喩にたとえることができる。その人は豪華客船を持っていたと。そして、彼の岸からこの岸までそれを使って渡ったと。ところがそこで、彼はその豪華客船から降りなければならなかったと。で、陸の上ではどうかというと裸同然だったと。これは、この豪華客船が五十億あるいは百億といったような財産を意味する。

では、八つの功徳を積んだ者はどのような形で見ることができるのかと。それ

はその人は、此の岸から彼の岸へ渡るときはあまりいい船で渡らなかったと。しかし彼の岸に着いて最高の車である、ね、例えばロールスロイスのリムジンが用意されていると。それだけではなくて、着いた先には豪邸が用意されていると。そして多くの侍者、つまり多くの召使がそこに存在し、美しい恋人たちがそこに群がっていると。これが八つの功徳の果報であると。

　では期間的にはどちらの方が長いのかと。例えば三十にして立志し、つまり志し、四十にして事業が成功し、数十億、数百億の財を得たと。それから四十年間、その財宝のもとで生活したと。そして死んでいくと。そして中間状態の四十九日のうちの、そうだね、あなた方だったら四十三日、四十四日ぐらいに転生するだろう。ここではもう既に悪業の因が結果を出しだしてるから相当苦しくなると。そして例えば次の生は三悪趣へ生まれ変わるというパターンと、それからもう一つはそんなに現世的に豊かじゃなくても、一生懸命八つの功徳を積み、四十日、あるいは四十一日、四十二日ぐらいに転生し、憤怒天、あるいは四天王衆天、忉利天、夜摩天、あるいは都史多天、楽変化天、他化自在天といったような高い天

界に生れ変わり、何千年、何万年、何十万年という楽を享受するかどうかだね。

◉六道を実体験し確信を持つ

じゃあ、そんなことを言ったってわたしには見えないよと。そんなこと言ったってわたしにはわからないよと、言う人がいるかもしれないけど、それはあなた方がヒナヤーナの財施、そして法施、安心施、ね、それから十の戒め、これを土台として瞑想技術というものがいろいろ伝授されてるはずである。あるいは伝授を受ける機会に恵まれているはずである。その瞑想を行なうことによって、どういう世界があるのかを自分自身で実体験できるはずである。

今回マハー・ケイマは初めて地獄の経験をしたそうだ。つまり地獄の世界へ降りていって自分自身が切断される経験、あるいは地獄の経典等を見、経験したそうだ。彼女の場合は、動物の経験、餓鬼の経験、人間の経験、あるいは阿修羅の経験、あるいは天界の経験を持っているから、一応六道の経験をすべてしたことになる。

そして、そういう経験をすればするほど、今あなた方のなしているオウム真理教の実践というものは、あなた方に確信を持たせるはずである。ところがそういう経験をせず、現世にまみれ、現世的な価値観に翻弄され、人生の指針というものをずらすならば、あなた方にとっては、一時的、瞬間的享楽はあるかもしれないが、それ以上の喜びというものは存在しない。

◉死——現世的価値観の破壊

わたしがなぜ近ごろ、「人は死ぬ、必ず死ぬ、絶対死ぬ」という言葉を言っているかというと、あなた方の価値観を転倒させるためには、あなた方の価値観を破壊するためには死というものを持ってくるしかないんだね。だって、必ず人間は死ぬでしょ。どうだ。永遠に生き続ける魂がありますか。もし、永遠に生き続けることができるなら、この世の財産、あるいはその他の諸々のこの世で肯定されているものというのはあなた方に利益を与える。しかしあなた方は必ず死ぬんだと。もし、その死というものを前提とするならば、その利益はすべて、ちょうど

氷でできたお城みたいなもんであると。ね。氷点下のときにはその氷は安定しているかのように見えると。しかし、それが五度、一〇度、二〇度、百度になってしまうと、もうその水分すら残らず、すべて蒸発してしまうと。これがあなた方のこの現世のすべての価値であると。

◉恵まれたチャンスを生かせ

人は必ず死ぬ。絶対死ぬ。そしてそのときに持っていけるもの、これを与える者、これこそが真の聖者であり、そして真のグルであり、そして仏陀であると。そしてあなた方はそのチャンスにね、今恵まれてるわけだ。チャンスに恵まれてるにかかわらず、それを見落とし、悪魔があなた方に提供しているあなた方の本当の意味での幸福を邪魔するようなものに目を向けてはならない。いいね。

（信徒）はい。

やはり、今返事というのは、十分の一ぐらいしか返事してないということは、十分の九は「いや、そんなこと言ったって現世がいいのよ」と考えてるかもしれ

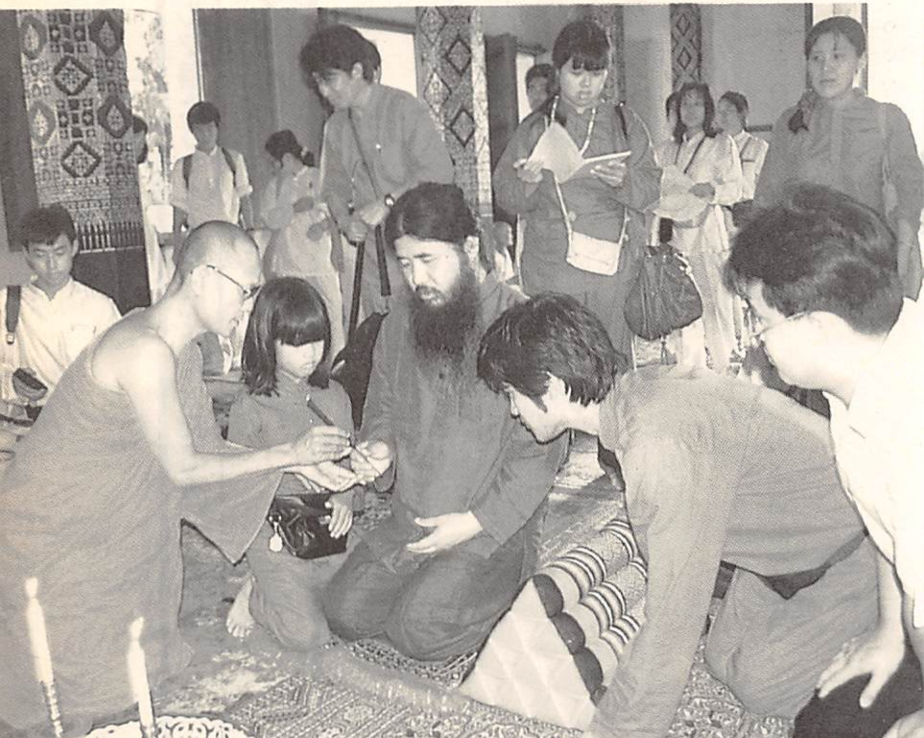
ない。でもそれは幻影である。

はい、ではね、あまり暗いことを言い続けてもしょうがないけども、でも現実というものは暗い。現実というものは、あなた方のなした結果しか返ってこないのだということ、これをしっかりと理解して今日の講話を終わりたいと思う。

最後に、ということは例えば今回の諸々の事件、あるいは叩かれてることについて、わたしがどう考えてるかよくわかったはずだ。これもすべてオウム真理教の垢落しであると。現にオウム真理教は存在し続けてるし、そして、逆に叩かれ出して多くのいい現象も起きてる。例えば『南伝大蔵経』の翻訳がどんどん進んでるとかね。例えばチベット仏教の経典の翻訳がどんどん進んでるとか。例えばわたし自体が瞑想ができるようになり、神通力が相当いろいろ戻ってきてるとかね。そこがわたしとあなた方の視点の違いであると思います。

はい、では、最後に大乗の発願を十三回、苦の詞章を十三回唱えて終わりにしようかね。

一九九〇年十二月十五日　金沢支部にて



第二話　カルマ落とし——それは〝逆説の幸福法〟

「ザンゲと供養が決め手だ！」

◉イニシエーションの土台となるもの

人間を構成する要素を大別すると、それは三つのパートに分けることができる。その三つとは何かというと、わたしたちのコーザル、アストラル、そしてこの肉体、現象界ということができる。そして、ある魂は肉体のみを意識し、ある魂はアストラルのみを意識し、ある魂は最も深い、わたしたちの本質に近い、コーザルを意識することができる。

この肉体からアストラル、そしてコーザルへと至る道はいろいろとある。例えば、ヒナヤーナ仏教においては、身(しん)・口(く)・意(い)の統御を行ない、八つの聖なる実践

を行なうことによって清め、そしてコーザルへと到達する。ところが、ナーガールジュナ――これはまあ、大乗仏教の典型的な菩薩の一人、日本では竜樹といわれているわけだけど――ナーガールジュナの時代に入ると、経典を学ぶこと、そしてグルが弟子に対してエンパワーメントを行なう、イニシエーションを行なうことによって、その最も深い意識状態、仏性(ぶっしょう)というものを発現させる。

例えば、ナーガールジュナの場合、リンゴをグルから受けたことによって覚醒が生じたと。そして、もう少し後期になると、例えば、これはオウム真理教とも大変関係のある、カギュ派の開祖ともいうべきティローパ、このティローパが弟子のナローパに対して、数々の帰依の試みをさせ、そして最終的に、自分のはいていた靴でナローパの頭を殴り付けるということによって覚醒をもたらしている。このようなものは客観的に見ると、まあ、何が何だかわからないと、論理的でないというかもしれない。しかし、それは深遠なタントラの教えである、管、そして風(ふう)、心滴(しんてき)という三つの組成を理解するならば、簡単にそれについて解明することができる。

この、ナーガールジュナのときのリンゴ、このリンゴにはグルのエネルギーが込められていると。例えばそれは、今日の、あなた方が受けた飴（注：尊師のエネルギーが込められたイニシエーション用の飴）と同じである。そして、そのエネルギーは、そのナーガールジュナの風、つまりエネルギーを強め、上昇させ、そして深い意識状態へといざなう。また、ティローパがナローパになした、靴で殴り付けるといった作業は、これはその風の詰まりを取り除き、そして、そこを浄化し、風の流れを良くし、そしてエネルギーを入れてあげるといった作業になる。

そして、日本のタントリックの本には、このような特異な例のみを紹介する傾向が強い。しかし、実際は、そのイニシエーションを受ける前には、最低二つの条件が必要となる。その二つの条件とは何かというと、第一は布施・持戒といった、これは在家修行の根本ともいうべき土台である。そして、第二は何かというと、それは教学・瞑想といった、出家修行者がなさなければならない、高い世界へ到達するための準備である。この布施・持戒、そして教学・瞑想といった四つ

百パーセント発揮されるわけである。

の柱がしっかりしている者に限って、本当の意味でのイニシエーションの効果が

◉カルマの理法――なしたことは返ってくる

皆さんは、布施の実践を行なうことによって、即座に幸福になると考えるかもしれない。しかし、それはカルマの理法というものを知らない、無智なるがゆえの考えである。例えば、今日なしたことが今日返るかと。もちろん、今日なしたことが今日返る人もいる。あるいは、今日なしたことが今日返らない人もいる。

この差は何かというと、それを現象化するスピード、つまりこれをヨーガの言葉を使うならば、タマスだとかサットヴァだとかいう言葉を使っているが、要するにカルマを現わすスピードを速める特質のある魂であるか、あるいは遅らせる特質のある魂であるかによって違ってくる。そして、もちろん速める方がステージは高いといわれている。

それはちょうどこのようなことである。例えば、ここにいらっしゃる方々のあ

る程度の人たちは、多くの殺生・偸盗・邪淫……、これを一つずつ説明すると、生き物を殺す、盗む、そして淫らな性的行為を行なう。嘘をつく、そして酒を飲むといったような、在家の修行者がなさなければならない五つの戒めというものを守らないで生活しているはずである。

そして、そのカルマというものは蓄積され、教学をし、瞑想し、ザンゲをしている人はそれが即座に返ってくる。即座に返るということはどういうことかというと、例えば殺生のカルマの顕現である痛み、あるいはケガといったような形で返る。あるいは、偸盗のカルマは、盗まれる、あるいは貧しくなるといった形で返る。邪淫のカルマについては、対人関係が悪くなるといった形で返る。嘘については、信頼を失うといった形で返る。そして、酒については、突飛な失敗を行なうといった形で返ると。こういう現象が返るはずである。

そして、返ったならば、そのときその人は後悔する。わたしはオウム真理教なんかやらなければよかったと。何でわたしはオウム真理教をやったんだろうかと。他の人は、悪いことをしても返らないでいると。そのとおりである。他の人たち

は、殺生をなし、偸盗をなし、邪淫をなし、妄語をなし、そして酒を食らったとしても、そのカルマは返らない。いや、正確にいうならば、彼らの借金の許容量は大変大きいということができる。

◉凡夫と修行者の違い――苦しみの器の大きさ

これはちょうど、このような比喩で表現することができる。ここにAという者とBという者がいて、Aという者は一億円まで借金することができると。Bという者は百万円しか借金できないと。そうすると、この一億円借金できる者は、ひたすら借金をし続けると。百万円も同じであると。ところが百万円借金、百万円しか借金できない者は、百万円以上借りられなくなってくると。そして、借りられないということはどういうことかというと、その借金が返ってきたとき、苦しまなければならないと。ところが、一億円借金できる人は、一億円まではひたすら借りることができると。そして、一億一円になったときに、借金を返さなければならないと。ところが、借金を多くできるということは、その人のポテンシャ

ルが大きいわけじゃなくて、その人が徳がないからそうなっているわけであるから、当然、返すときに苦戦しなければならない。

前者は、来世三悪趣に生まれ変わる魂であると。後者は現世果報、現世によって苦しまなければならないカルマの持ち主であると言うことができる。

麻原、お前の言っていることはおかしいんじゃないかと。なぜそういえるんだと。例えば、一つの証明として、オウム真理教の修行をやっている人と、それから凡夫とでは、苦に対する許容量が違うと。苦に対する許容量が違うとは何かというと、先程言ったとおり、絶えず借金を返し続けて、あるいは、信徒の中でも徳のある人は徳を積んで、逆にプラスの、預金の状態にあるから、苦しみの形成されているこの五蘊(ごうん)の状態が、苦しみではなく楽の方に傾いてきていると。

ということは、この修行を始めて悪い現象が起きるということは、マイナスではないんだということである。いや、修行の大原則であるザンゲと供養という二大の柱の中の、ザンゲを行なうことによって出てくる、この苦しみというのは、わたしたちの内側に潜んでいる、来世わたしたちを悪趣へと導く、悪趣へと転生

させるカルマを切るためには、出してしまわなければならないことであると。ところが、どうですか、皆さんは。それをそう考えて実践しているかな。

◉アナータピンディカ長者の布施と奉仕

では、このザンゲと供養、供養の最も典型的なもの、それは布施と奉仕であると。これについて有名な話がある。

覚者サキャ神賢（釈迦牟尼）の在家の一番弟子であるアナータピンディカ長者、彼は覚者の教団に何十億、何百億という布施をなした人である。そして布施だけではなく、まず早朝に一回、朝食後に一回、そして夕方に一回、つまり一日三回奉仕の活動に祇園精舎（ぎおんしょうじゃ）へと出向いた人である。そして、一切の家業を放棄し、ひたすら布施、ひたすら奉仕を尽くした人である。当然、いかなる長者であっても、サキャ神賢の救済計画に対して多くの布施をなしたわけだから、そして仕事をしないわけだから、経済的にピンチになると。そして、実際、供養できないぐらいのピンチの状態に追い込まれても、彼はひたすら供養し続けた。そして、最

終的には彼の功徳が優り、彼が布施をした分と同じだけの財が、また戻ってくるわけである。

ここでポイントになるのは、なぜ布施をした金額と同じだけ戻ってくるのかと。それ以上戻ってこないのかということである。これは、彼が財に対して興味がなかったからである。彼はその財と同時に、次の生で、皆さんもよく知っている兜率天、つまり第四天界へと転生している。つまり彼のなしたカルマは、財に還元されるのではなく、戯忘天界、第四位である兜率天へと生まれ変わることで、その功徳は果報となったわけである。

◉布施と持戒の徹底を

人は死ぬ。必ず死ぬ。絶対死ぬ。死は避けられない。無智なるものは死を見ない。しかし、死は存在している。その死に対して、ただ一つの答えを持っているオウム真理教、そして日本でただ一人、生と死のすべてを経験し、見、話すことのできるグル、それがわたしである。あなた方はその教えのもとに、今、真理を

実践している。だとするならば、まず、在家の戒である五つの戒め、そして在家の功徳である三つの功徳、これを実践しなければならない。そして、教学をし、瞑想をし、イニシエーションを受け、早く自分自身とは何であるか、自分は何のために生まれたのか、自分は何のために死ぬのか、どこへ生まれ変わるのか、こういうことをすべて見、聞き、知り、経験できるようになりなさい。

一九九〇年十二月二十二日　札幌支部にて

修行者① 地獄のカルマ篇

◎草刈りも立派な殺生

鈴木壽々代

ワークで草刈りをし、作業後、大鎌を研ぎ、片付けにいこうとしたところ手を切ってしまいました。虫などは殺生しないように気を付けていたのですが、草についてはさほど気には留めていなかったのです。

数日後、尊師から草刈りも殺生になる（植物の場合は、一つの植物に一つの魂が宿るわけではないが、いくつかの集まりに精霊が宿る）から即刻止めるようにという指示が来たのですが、それを聞いて、手を切ったのは殺生のカルマが返ってきたのだと納得しました。また、痛みがあまりなかったのは、身のカルマだけで心からのカルマではなかったからだと思います。

◎魔術の恐ろしさ

福田博久

わたしは、現世のころ、自分の上に立とうとする者を、魔術によって次々と蹴落とそうとした。それも、本格的なサタン崇拝を根本とする恐ろしいものだったので、その効果にはものすごいものがあった。

しかし、その果報は出家してから、強烈なカルマ落としとして返ってきたのである。まず、建築のワークに携わっていたときは電気のこぎりで手をメチャメチャに切り刻んだし、自動車事故を起こし、体の四カ所に傷を負った。また、他の部署に移ってからも、体の二十五カ所から膿や血が噴き出し、激痛のため立てないこともあった。さらに、沸騰した豆乳を首にかぶりやけどをした。

実証――こんなところにもカルマの法則が！

出家修行者の中でもこれほどのカルマ落としを受けた者は少ないだろうが、わたし自身は、少しずつ悪業を滅しながら真理の実践ができることを非常に幸せに思っている。

◎頭ばかりぶつけた理由は？

ヴァジラヴァッリヤ

信徒のとき、深夜セミナーでダルドリー・シッディが起き始めたころ、どういうわけか、どこにいても頭をぶつけるという現象が起こりました。壁の近くにいれば壁に頭をぶつけるし、壁から離れると、今度は意識が飛んで後頭部を畳に強く打ち付けるのです。

実は、わたしは十数年間剣道をやっており、しかも得意技は「面」だったのです。これは、そのカルマが返ってきているのだと実感しました。



◎多くの悪業をなせば多くの悪業が……

猪瀬正人

オウム真理教の修行を始める前の僕は、とても排他的で暴力的でした。殴り合いのケンカを繰り返し、親にさえも時には暴力を振るい、目上の人に対しても、大勢の人の眼の前で罵詈雑言を浴びせかけたり、全くひどいことをしていたものです。

当然のことながらそのカルマは返ってきました。仲間外れにされたり、部活動では先輩に制約を受け、交通事故にも何度も遭い、心は緊張するようになりました。

しかし、こんな僕でもオウム真理教に入信し、カルマの法則を学ぶことにより、他人を思いやることの素晴らしさを教えていただき、心も変わっていきました。

◎叩きたくないのに叩いてしまう……

パーラーパリヤ

わたしは、現世では、ボクシング・剣道・柔道と多くの暴力のカルマを積んできました。

出家し、道場建設のワークに就かせていただいたときのこと、気を付けてはいるのに、片手ハンマーや金槌で左手を力いっぱい叩いてしまうのです。指先は真っ赤に腫れ上がり、物がつかめないほどになりました。

また、ワークで人に怒ると、その後で自分が怒られる羽目になったりと、カルマの法則は本当にあるんだと感じました。

第三章　カルマの法則にのっとった真の幸福を明かす

第一話　耐える――その先に至福が

「四つの預流支、そして聖なる道へ」

◉揺るぎない確信に基づいて

わたしは、この日本に生まれる前、多くの生において多くの文明を形成してきた。――今日、実は講話が遅れた理由というのは、三昧に入っていて体が固定されて、ちょっと動かなくてね、それで遅れたわけだけども――特に、石の文明、皆さんもよく知っているエジプトの文明、あるいは南アメリカの文明、あるいはこの地球以外の場所において、多くの文明を形成してきた。

で、この石の文明の由縁とは何かというと、多くの人たちをいかにポアするかと。このポアというのは、高い世界へ意識を移し変えるかという、それを科学的

にコントロールする一つの大きな技術であると。このポアは、わたしたちの五大エレメント――地元素・水元素・火元素・風元素・空元素、この五大エレメントの地元素優位からいかに水元素へ移行させ、そして火元素へと移行させるかということが一つのポイントとなる。なぜならば、下の元素より上の元素の方が精神性が高いからであると。

そしてわたしは、その自分自身が経験している三昧、如実智見、遠離、離貪、解脱というプロセス、あるいはその三昧によって経験した死、生、死、生の繰り返し、あるいは死と生の中間状態、この経験、これをもって魂というものは必ず死に、そして、前生のカルマというものが、次の生を決定するのであるという話を皆さんにしているわけです。そして、この経験があるからこそ、いかに社会的に非難されようとも、あるいは社会的に評価が揺らごうとも、そういうことは一切関係なく、わたしはわたしの経験に基づいた主張というものを今まで展開してきました。つまり、絶対的な確信がわたしの中にあるからこそ、わたしは皆さんに対して、あなた方は真理にのっとり生きるべきであるという主張ができるわけです。

◉此の岸から彼岸へ――

では一体、真理に根付いて生きるとは何なのかと。これは、皆さんの知っている四つの預流支(よるし)のことであるといえます。

四つの預流支とは、まず第一に、三宝に対する帰依。つまりこれは、グル、真理、そしてグルの教えに集う集団に対する奉仕や布施の実践ということになります。この三宝のサンガとは何かと。これを別の言い方をするならば、ヒナヤーナ、マハーヤーナ、タントラ・ヴァジラヤーナの教えを実践し、その修行によって、ある程度の悟りに到達している者たちということになるでしょう。そして、その教え、これを多く聴き、学び、この現世の三悪趣へ至るデータと同じぐらいになるデータの量を吸収し、それに基づいて考えると。これが二番目の預流支、そして三番目の預流支である。そして第四番目の預流支、これはそれを実践することであると。

真理とは素晴らしいものです。では、なぜ真理とは素晴らしいのかというと、この四つの預流支を川による旅、あるいは海による旅にたとえて考えてみましょ

うと。

まず、第一番目の三宝に対する帰依は、これは自分自身が乗る船、この船を信じるということになります。あるいは、どの船に乗るかを選定し、過ちのないようにするということになります。

そして、その帰依とはその船を掃除し、整備し、途中で沈没しないように奉仕すると。そして、まず全体的な地図の確認に入ると。これが、第二番目の多くのものを学ぶということです。もし、多くのものを学ばなければ、一体どの海流を使ったらいいか、あるいはどこでどのような川の流れになり、そしてそのときには、どうしたらいいかというようなことが理解できなくなる。

よってまず、全体的な流れをつかみ、そして第三段階において、今自分自身がどこの所を実際に走っているのか、そしてどういう問題点があるのか、その問題点については、どのようにしたらいいのかということを十分に考えると。つまり、これは地図の確認、および今まで目的地へ到達したことがある人の意見を聞き、それを自分に当てはめて、頭の中で予行演習を何度も何度も行なうということです。

そして、第四番目にやっとその実践を行なうと。つまり、頭の中に地図がはっきり入っていて、そしてその確認、それから自分自身の問題点、つまり運行途上の船の問題点というものをしっかりと把握しているから、第四番目の目的地へ向かうということは、それほど難しいことではないでしょう。

これこそ、四つの預流支であると。つまり、四つの預流支というものは、対岸、彼岸へと到達する絶対的な方法であるということがいえると思います。

◉何に対して帰依するか

では、次にこの三宝——ヒナヤーナ、マハーヤーナ、タントラ・ヴァジラヤーナの教えの完成者、あるいは教え、あるいは教えに集う者とは何でしょうかと。これは、今月号の信徒用『マハーヤーナ』にも載ってると思いますが、その対象となる者は、八つの聖なる実践を行なっている者、または六つの徹底を行なっている者ということになるでしょう。ここで一つ気を付けなければならないことは、この八つの聖なる実践方法、つまり一般によくいわれている八正道、あるいは六



つの徹底、つまり六波羅蜜、この二つは同じであるということ。これは、今年一月の四日に行なわれた説法祭の中で、わたしは八正道と六波羅蜜が同じであるということを説いています。この講話をお聴きになられた方であるならば、よく理解できるでしょう。

この八正道や六つの極限によって三昧に到達し、その三昧によって、如実にこの三界を智見すると。そして、結局それはすべて幻影であるということを理解し、遠離し、離貪し、そして解脱した者、これを仏陀といいます。そして、その教え、それが真理です。そして、その途上にある者たち、これがサンガに集う者ということになるでしょう。もし、この者たちに対して布施や奉仕の実践をするならば、必ずやカルマが落ち、浄化され、そして、未来において同じように仏陀として、完成者としてすべての魂の尊敬の的となることでしょう。

もし、この聖なる八支の道の実践者ではない者に対して、布施や奉仕の実践を行なうならば、それはちょうど焼いた種をまいて、花やあるいは果実を得ようとするのと同じように、それはなかなか不可能なものとなるでしょう。つまり、四

つの預流支の土台は、何に対して帰依するか、これが第一の土台となります。

◉徹底した清らかな修行

これは、名古屋のある一生懸命やってた信徒さんの中で、こういう話があります。一生懸命オウム真理教を実践していると。そして、まあ、その人は事業をなさってたわけだけども、その事業が、オウム真理教の名前を出すことによって行き詰まられたと。それは、今まで社会的に叩かれてる教団だからであると。そして、彼はこう考えた。「現世を生きていかなければ仕方がないんだ」と。そういうことでオウムを離れられ、ある修験道者のところに行かれ、そしてそこで護摩火、その他を焚いていただき、現世的な生活を豊かにしようとしてらっしゃると。

これは来月の『マハーヤーナ』に載る内容だけども、あのアナータピンディカ長者も、全く布施のできないぐらいの貧しい状態に追い込まれました。それはなぜかというと、仏教の教えというものは、徹底した清浄。つまり、清らかな修行です。

アナータピンディカ長者は、早朝、そして食後、夕方と三回、僧たちのたくさんいる精舎（しょうじゃ）を訪れ、そして奉仕作業をなさってた。ということは、家事を全くなさらなかったと。稼業である事業をなさらなかったと。で、その度に布施の実践を行ない、結局どんどんどんどん布施していくわけですから、生活できなくなったと。もちろんこれは、最終的に神秘的な力で救済されます。

で、なぜその神秘的な力で救済されるまで、実践をなさったかというと、結局カルマが落ち切るまで、つまり人間としてのカルマが落ち切るまで、あるいは利益追求の長者としてのカルマが落ち切るまで、この実践をなさったんだと考えたら正しい。ところが、カルマが落ちる前に果報、つまり結果を求めようとすると、真理の教えというものは、なかなかつらいものがあります。つまり、その名古屋の信徒さんは、教義、仏教的な教え、あるいは真理の教えというものが理解おできにならなかったんだという、これは大変残念な例です。

逆に、同じ名古屋の信徒さんでこういう例もある。これは、前回のシークレット・ヨーガでわたしにザンゲをなさり、そこでカルマが噴き出し、事故に遭われ

たと。車がつぶれ、若干のケガをなさったが、それによって殺生、つまり地獄へ落ちるカルマを切ったという方もいらっしゃいます。この人は一生懸命、教義を理解してらっしゃったから、自己のカルマであることを認識し、それからよりいっそう修行にいそしまれていたと聞いています。この前者の選択をするのか、あるいは後者の選択をするのかは、大きな違いがあります。

◉エネルギーを強め、充実させる

在家の修行である六つの徹底、この六つの徹底の中の三番目になぜ忍辱(にんにく)がくるのかということ、これを皆さんがもしご理解いただいたら、仏教の素晴らしさ、あるいは真理の素晴らしさというものがよくご理解いただけるでしょう。

つまり、三つの布施――財施・真理施・安心施という三つの布施を徹底的に行なうことによりエネルギーを強めると。光を強めると。

そして、第二番目の殺生を離れ、すべての魂を慈しむと。偸盗(ちゅうとう)を離れ、施すと。邪淫(じゃいん)を離れ、人と人と和合すると。嘘をつかず真実を語り、堂々と生きると。

酒、タバコ等の心を乱す物から離れ、絶えず心を安定させた状態に置くと、いう五つの戒を守ることにより、エネルギーの漏れをなくし、蓄えられた功徳のエネルギーを充実させると。

そして、三番目にくるもの、それは過去、あるいは過去世に積んだ悪業を滅するための忍辱です。つまり、布施、持戒という二つがなされていれば、三番目の忍辱は平然と耐えられるはず。ところが布施、持戒がなされていないと、三番目の忍辱というものはなかなか耐えることができません。

では、この布施、持戒を実践するためには、何をなせばいいのかと。その問題については、先程も述べたとおり、四つの預流支の実践ということになります。つまり三宝帰依、真理を多く学ぶこと、真理に基づき考えること、そしてその実践です。つまり、前者の信徒さんはこの四つの預流支ができてなかったということになる。後者の信徒さんは四つの預流支の途上にある、実践ができてるということになる。

◉法は実践してこそ

法は生きています。そして、この法の実践をするかどうかが法の喜びであり、そしてわたしとサンガの喜びであるといえます。

一九九一年は多くの出来事があるでしょう。それは、社会の揺れというものは、今よりもっともっとひどくなり、逆にオウム真理教は、多くの真理のデータを皆さんに提供することになるでしょう。例えばアニメーション、例えば「死と転生」、例えば、子供たちに声の劇団というのかな、等の提供ですね。あるいは若者のためのマンガ等です。

人は死ぬ。必ず死ぬ。絶対死ぬ。死は避けられない。死の前には財産も無効だし、権力も無効だし、あるいは愛着しているものすべてが無効であり、苦しみであると。このことをしっかりと悟ってください。

一九九一年一月十五日　名古屋支部にて

第二話　人生逆転——功徳こそすべて！

「有限の生と八つの功徳」

◉グルとシヴァ大神の守護

この東京本部に、大変有名なMさんという一家の信徒さんがいる。この人の実名を出すとあまりにも有名すぎるので、ご迷惑がかかってはまずいから、今日はMさんということで話を進めたいと思います。

実は、このMさんに二人のお子さんがいらっしゃって、その中の下のお子さん、このお子さんも、まあ、ちょっと反逆的な性格ではあるが、熱心な信徒である。ここでいう熱心とは何かというと、教学や瞑想を一生懸命やるというわけではなく、ただオウムのいろんな出来事に対して、協力できる部分は一生懸命協力する

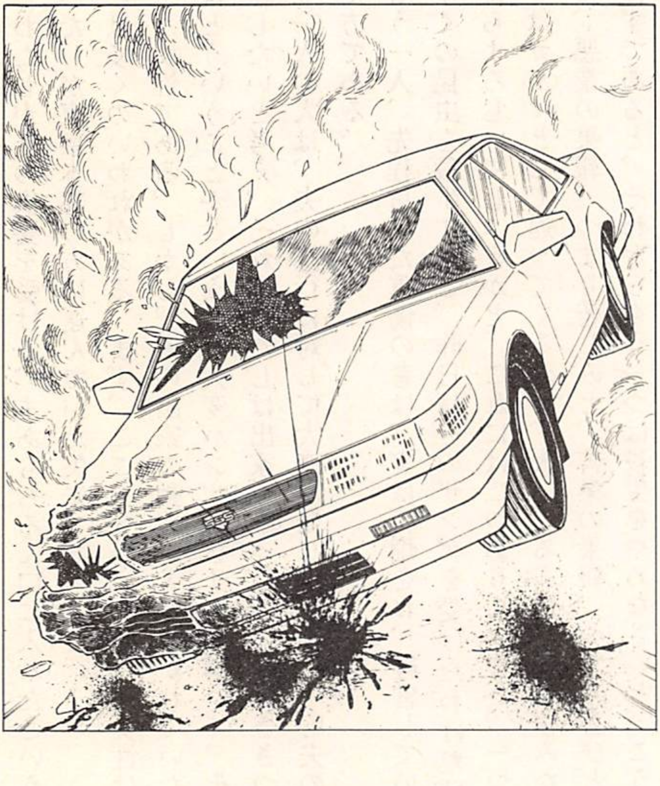
というようなタイプの信徒である。そして、イニシエーション、その他の修行のコースもある程度受けていると。で、この子供さんの車が事故に遭って、そして子供さんは全くかすり傷一つ負わず、そして助手席に乗っていた人がムチうちを起こし、相当に苦しんでると。で、この子供さんは自分が何ともないのに、助手席に乗ってる者が苦しむのはおかしいと考えていたと。それはそうである。なぜならば、ある程度のイニシエーションを受け、そしてある程度のバクティーを行なっている彼は、当然シヴァ大神、あるいはグルのエネルギーによって守られているからである。

近ごろ、とみにサマナの事故が多くなり、そしてケガをするケースが出てきている。これは、何かというとサマナの信が薄れ、教学をせず、そしてよこしまな考えにひたるといったカルマを積む結果、そういう現象が起き出してるということである。

◉ある事故が意味するものは

そして、昨日、わたしは仙台支部でシークレット・ヨーガを三十数名受けたわけだが、その中の二人の乗っている車が、岩手方面にて事故を起こし、その中の三名が亡くなった。わたしは、そのときちょうど仙台支部から東京へ向かう車中であった。そして、わたしの心臓と呼吸が止まり、性欲の空間に何度も何度も放り出されると。つまり性欲のバルドーに何度も何度も放り出され、一生懸命この現象界に、肉体の意識を戻そうと努力していたときである。つまりこの三名の信徒さんの即死、そして一名の大ケガという事態のときに、わたしはバルドーへと飛んだということになる。

この事実はいずれ書物に著わすことにするが、この四名の最も近い人の一人はイニシエーションの説明を受けて残ったと。よって、この事故に遭わなかったと。そして、先程言った三名の即死以外のもう一人の――これは重傷だがね――人はその日仙台支部に干し柿を持ってきた人であると。で、それをわたしが、これは仙台支部のサマナでは受けられないカルマであるから、わたしが持ち帰るよと言っ



て、ちょうどわたしがその供養を受ける、まあもちろん口に入れたというわけではなくて、わたしが東京本部の方に運んでいた矢先であったと。

この四名には多くのいわれがある。まず、ここで登場する一人の女性は、昨年出家を考えてた女性である。しかし、その出家の動機が大変けがれていたと。つまり、それはどういうことかというと、大変ハンサムなサマナがいて、それを動機として出家したいと考え、それをわたしは出家を蹴ったといういきさつがある。そして、もう一人の人は、夫の修行に対して大変反発し、しかし一応夫の手前信徒であられた方である。

それからもう一人、先程言った重傷の者は、実は花畑をね、経営していて、農薬をまき、多くの昆虫を殺生すると。昨日はそのザンゲを受けたわけだけども、で、どうしたらよろしいでしょうかと。これには二つありますよと。一つはその殺生のカルマはカルマとして返ってくるから、大いなる布施功徳を積みなさいと。それによって、悪業の果報、つまり苦しみと、善業の果報、つまり喜びとが同時に現われるはずであると。それからもう一つは殺生をやめなさいと。こういうア

ドバイスをした矢先であった。で、そのおじいさんはわたしに対して、「カルマというのは早く返ってくるんですか、遅く返ってくるんですか」という質問をした。わたしは、あなたがサットヴァであれば、つまり心が清らかであれば、こういうザンゲをしたならば、即現象化するでしょうと。嘘の多い人生であるならば現象化は遅れるでしょうと話をした矢先である。

つまりここで考えなければならないことは、これら四人の人たちがあまり徳も積まず、教学もせず、瞑想もせず、悪業を多く積んで、名ばかりの信徒として活動する場合、今まだ信があり、ある程度の教学、ある程度の瞑想をしてるときに、死というものが訪れたということは、魂の大きな流れから考えると決してマイナスではないということである。

◉解脱のチャンスをつかめ

わたしの心臓停止、呼吸停止については、八月の癌患者のときもそうであるし、あるいは十一月のポアのときもそうであるし、あるいは今回のときもそうである

が、信徒であり、わたしのイニシエーション、あるいは秘儀マントラ等、わたしとパイプのできた者が亡くなるとき、必ずわたしはそのバルドーへ現われ、そしてその者たちの弁護人として、あるいはその者たちを高い世界へポアする役割として、その世界へ至るということを実証的に説明した大変有意義な例だと思う。

そして、このような神通力というものは、仏陀釈迦牟尼の教団において成就者といわれる者たち、特に八十人の成就者といわれている者たちがすべて有していた神通力であり、例えばインド密教のティローパ、あるいはナローパといったカギュ派の成就者たち。あるいはグル・リンポチェといったタントラ密教の成就者たちが有してた神通力である。また、チベットにおいては、例えばミラレパ、あるいはビルパ、あるいは今ではおそらく、カール・リンポチェやダライ・ラマといった数少ない成就者の有している特殊な菩薩の神通力であると、わたしは考えています。

しかし、大変残念なのは、例えば、その女性に対してわたしがアドバイスした「あなたは無智のカルマが強いから、このままいくと動物の世界へ転生するから、

もっとしっかり教学をし、功徳を積みなさいよ」というアドバイスをし、そして秘儀マントラを耳から入れてあげた矢先のこの結果である。もちろん、シークレット・ヨーガを受けたことによって、その人の意識がポアされ、そして動物から餓鬼界、あるいは人間界へと転生したことは疑いない。まあ、この三人の転生を正確に説明するならば、一人は動物、一人は餓鬼、一人は人間よりも少し高い世界へと転生したと、転生すると。したじゃなくてするだね、今、形状は決定してるけどもバルドーの状態にあるから、今の場合はね——ということは、疑いない。

わたしが、ここでなぜ残念だと言ったかというと、それはここに集まっている者たちもそうだが、本来このサムサーラを出離し、そして解脱するチャンスに恵まれている。もし、出離し、解脱するチャンスに恵まれてる魂が解脱をするならば、いかなる状況にあろうとも、例えば瞬間的な死であろうとも、時間のかかる死であろうとも、その死に際し意識を連続した状態で、次の生、高い世界へ転生できるという大いなるメリットがあるということである。そして、それを覚醒という言葉に置き換えて、今のタントラの経典や、あるいはマハーヤーナの経典は

説いている。
皆さんもよく知っている大乗仏教の菩薩ナーガールジュナ、これは日本では龍樹といわれてるけども、例えば彼の場合、グルからリンゴにエネルギーを込められて、エンパワーメントを受け、その瞬間に覚醒したという逸話が伝わっている。あるいは、ナーランダ大学の教授から密教の弟子になったナローパ、このナローパを覚醒させたティローパの技法というものは、自分の靴でナローパの頭を叩き、その瞬間に覚醒が生じたといわれている。これはオウム真理教でも、例えばヴァジラヤーナの帰依、あるいは今行なっている飴のイニシエーション、あるいはミラクルポンド等、いろいろなエンパワーメントによって、あなた方の意識を覚醒させようと努力し、そして多くの者たちが覚醒し、輪廻(りんね)に対するかなりの確信を身につけているという事実がある。

◉偉大なるポア

人は死ぬ。必ず死ぬ。絶対死ぬ。死は避けられない。この死を避けることは、

たとえ天皇であろうとも、総理大臣であろうとも、あるいは三菱や三井の大富豪であろうとも、あるいは異性にもてもてのタレントであろうとも、だれも避けることができない。あるいは真面目に生きようとも、不真面目に生きようとも、その死を避けることはできない。そして、その死に対して多くの準備を行ない、死を知り、経験し、確実な転生をすることこそ、わたしたちがこの短い七十年、八十年といった人生を与えられた最高の生き方であるとわたしは考えます。

人は死ぬ。必ず死ぬ。絶対死ぬ。死は避けらんない。では、在家では何を実践したらいいのかと。あるいは出家においては何を実践したらいいのかということになる。

まず、在家において実践しなければならないこと、これは八つの功徳である。では、八つの功徳とは何か。

これはまず、グルに対して絶対なる信を持ち、帰依をすること。帰依というのは、グルの教えを聴き、それを実践し、そして布施等の供養を行なうということである。

第二の功徳は何かと。これは真理を知り、真理を学び、真理を供養するということである。ここでいう供養とは、真理を広めるということである。

では、第三の功徳とは何か。これは、サマナを敬愛し、そしてサマナに奉仕をするということである。これはバクティーの手伝い、その他の奉仕活動に従事をするということである。そして、教団に布施をするということである。

では、第四の功徳とは何か。これは、生き物を殺さないだけではなく、哀れみの心を持ち、あるいは慈しみの心を持ち、接するということである。これはどういうことかというと、例えば人間が人間を見る場合、外道、凡夫といった、例えばまだ真理に巡り合うことのできない徳のない人たちがいる。この人たちに対して慈愛の心を持ち、早く真理と巡り合い、そして絶対的な自分自身を確定してほしいと願う心。あるいは、今まで殺していた小動物に対しては、その小動物の今の姿、行動に対して、その無智を哀れみ、そして早く人間へと生まれ変わり、真理と巡り合ってほしいと考えること、これが四番目の功徳である。

五番目の功徳は何かといったら、これは偸盗(ちゅうとう)をしない、盗まないということ

である。そして、盗まないだけではなく、すべての魂があらゆる意味において、豊かで繁栄がもたらされることを祈るということである。

では、六番目は何かといったら、これは邪淫をしないということである。この邪淫をしないというのは深い意味があり、これはオウムには「五戒の詩」というのがあるわけだが、ここでも述べられてるとおり、愛欲にふけり、独占欲が生じると、それによって人と人との和合というのが乱れる。よって心にけがれの残るような交わりをしないと。そして、すべての人と親和するということである。

では、七番目の功徳は何かと。これは嘘をつかないということである。そして、嘘をつかず真実を語り、堂々と生きるということである。

最後の八番目の功徳は何かと。これは、酒を飲まない、タバコを飲まない、梅酒を飲まないといった、要するに自己の心を乱すものを飲まない、吸わないということである。それにより統一した意識の状態を保ち続け、そして教学をし、データを入れ替え、高い世界へと意識を移し変えていく、これが偉大なるポアである。そして、ポアの終極には絶対的な境地が存在している。

五戒の詩

1

戒め守って高い世界へ　わたしは進む道をとる

はるかな過去から過ちを　犯し続けて今気付く

自己の苦しみは　自己の因

2

魂守って生きること　それは天へと至る道

殺生せずに生きるなら　身体の苦痛は消え失せる

自己の苦しみは　自己の因

3

人に施し生きること　それは豊かな人生を

偸盗せずに生きるなら　貧苦の生活越えられる

自己の苦しみは　自己の因

4

見返り求めず真愛を　振りまくならば幸せに

邪淫をせずに生きるなら　楽しい交友待っている

自己の苦しみは　自己の因

5

真実語って生きること　それは願望かなう道

妄語を離れて生きるなら　正しい選択待っている

自己の苦しみは　自己の因

6

正しい生活営むならば　正しい選択身に宿る

飲酒を離れて生きるなら　過ち犯さず幸せに

自己の苦しみは　自己の因

◉八つの功徳を確定するために

人は死ぬ。必ず死ぬ。絶対死ぬ。死は避けられない。その死の前には何をなせばいいのか。昨日亡くなった三人、そして大ケガをした一人は、今日この東京本部と同じように輪廻転生（りんねてんしょう）について多くのことを学んで、その次の瞬間に死を迎える、あるいは重傷によって、意識の混沌とした状態を迎えている結果となっている。わたしは、徳がない割には、徳があったんだなと考えています。そして彼ら四人に最も近しいサマナが一人います。このサマナは大変徳のある人ですから、きっとバルドーの教えを説き、その四名を今形成されている仮の姿から、少しでも高い世界へといざなう道案内をすることとなるでしょう。

　では、この八つの功徳を確定するためには、何を実践したらいいのかと。そのためには四預流支（しよるし）の実践を行なうべきであると。この四預流支とは皆さんもよく知っているとおりね、まずグルに対して、あるいはシヴァ大神に対して、あるいは仏陀（ぶっだ）に対して絶対の浄信を持つということ。ここでいう仏陀やシヴァ大神というのは、その化身（けしん）であるグルを指します。そして、真理に対して絶対的信を持ち、

それを学ぶということ。そして、そのグルの弟子である真理を実践している人たちに尊敬の念を持ち、その奉仕のお手伝いをし、一緒にすべての魂が絶対的境地であるマハー・ニルヴァーナへと到達する実践のお手伝いをするということ。これが第一である。

そして、第二は、説法テープを多く聴き、『マハーヤーナ』を何度も何度も読み、自己の心のデータを入れ替えるということ。例えば、例として挙げるならば、空腹感が生じたと。その空腹感に対して真理の教えでは、その空腹というものは、例えばまあ、餓鬼のカルマである。あるいは、実際に必要で空腹になっている状態である。あるいは、胃が拡張して空腹になってる状態である、等々いろいろな見方があるだろう。しかし、一般には、空腹イコール何かおいしい食べ物はないかなという心の働きへと変わってしまうと。この二つの心の働きは大きな違いを招く。

つまり、前者はより分析的に心を統御するようになり、そしていずれ餓鬼の世界と縁を切り、餓鬼のカルマを切ると。ところが後者は、どんどんどんどん煩悩(ぼんのう)

の現代のいろいろな情報に洗脳されてるわたしたちは、多くの教学をすることにより、その洗脳の力を弱めるということである。

第三番目は、学んだ教えを深く考えると。そして自分に当てはめる、現象に当てはめる、あるいは周りのいろいろな環境に当てはめるということである。これが第三番目の預流支である。

そして、第四番目は考えるだけではなく、それを実践するということである。そしてその終極が、六つの極限であり、聖なる八支の実践方法であると。

◉四つの柱の実践を

実はわたしは昨日ね、一つの、まあ、悟りを開いたというか、経験をしたと。それは何かというと、近ごろ皆さんも知ってるとおり、永代帰依祈願、シークレット・ヨーガ、その他のいろんなイニシエーションによって、皆さんのカルマを受けています。よって、例えばナーディーが詰まると。そこで痛みが生じると。

で、一昨日ぐらいから、またこの足をね、竹刀で一日一万発叩くというヴァジラヤーナの帰依という修行があるわけだが、これを始めたわけです。するとどうかというと、叩いていると、ね、叩いてるときは確かに痛いと。しかし、終った後、その詰まってるナーディーが痛みからかゆみに変わるんだね。で、このかゆみは、ま、今回北海道、仙台、東京と一緒に動いているヴァジラティッサ師――これは皆さんもよく知っているドクターだけども――と話をしていてわかったことだが、結局同じ神経の働きで、痛みからかゆみになるんだということ。それはちょうどその痛みというのは、その部分を刺激する回数が大変多いと。例えば一秒間に何万回とか何十万回とかいう回数だと思うがね、ところがかゆみはその回数が少なくなって、かゆみになるんだということ。

ということは何かというと、仏教でいう、例えばカルマ落としを受ければ、カルマが落ちるというのは正しいということになる。なぜならば、叩くことによって痛みが生じる。痛みが生じることによってわたしの受けたカルマが落ちて、痛みからかゆみに変わったということの証明であると。ま、これも、いずれね、皆

さんに医学的根拠、この痛みからかゆみに至る数学的計算というのは積分を使うそうだから、きっちりとした形でね、皆さんに証明することになると思うが、わたしはそれによって、またこれで信徒の皆さんに一つプレゼントができたなと。このプレゼントを皆さんが生かしてくれるならば、より正しいものの見方によって、真理の実践を励んでくれるんじゃないかなという確信を持ちました。

人は死ぬ。必ず死ぬ。絶対死ぬ。死は避けらんない。そしてその死の前にはお金は無効だし、恋愛も無効だし、それから社会的地位も無効だし、権力も無効だし、一切のものが無効であると。そしてそれを超えるためには布施、奉仕といった功徳、それから教学、そして瞑想、そしてイニシエーションといった四つの柱を実践することにより、いかなる人も必ず超えられるんだということを皆さんの前で説き、今日の講話を終わりたいと思います。

一九九〇年十二月二十四日　新東京本部にて

第三話　悪趣を破る秘儀を公開！

「戒の功徳、布施の功徳」

◉ポア・コースの意味合い――菩薩としての修行

今日は、オウム真理教のポア・コースについて、その修行の意味合いについて話したいと思います。

ポア・コースの修行とは何か。これは、釈迦牟尼の時代の天界に至る修行にあたるわけだね。天界に至る修行というのは何か。これはね、ヨーガタントラはやりたい。解脱したい。しかし、その条件が整っていない。条件が整っていないとは何かというと、例えばここに素晴らしい人がいて、その人の徳というものは、他の人の徳を遥かに越えているのだが、家庭の大黒柱である。あるいは、家庭の

主婦である。あるいは、会社を持っていて、従う人がたくさんいる。
こういう人が、例えばヨーガタントラの修行を行ない、家庭を捨てたならば、あるいはいったん一年や二年でも修行に入ったならば、その会社でその人を信頼してついてきている人たちが、何百人、何千人と路頭に迷わなければならない。あるいは、大黒柱が抜けたなら、その大黒柱を愛し、ついてきた妻、あるいは子供たちが路頭に迷わなければならない。これは妻が修行する場合も同じだね。これらを条件が整っていないというんだ。
では、そういう人たちは、ヨーガタントラを行じている者に比べて徳がないのかといえばそうではない。その人たちの今生の役目というのは、菩薩なんだね。ボーディーサットヴァとは一体何か。これは、真実を学び、周りの人たちを幸福にしていく者、これがもともとのボーディーサットヴァの意味です。そして、いずれは自己と関係のある人々を、例えばある人は百人かもしれない、ある人は千人かもしれない、ある人は百万人かもしれない。その人たちを一気に「マハーヤーナ号」に乗せてマハーヤーナへ連れていく、これが菩薩の意味合いだね。

そして、今生で解脱できない条件の人が、「自分はヨーガタントラの修行をできないから、真理を実践できないんだ」と思ったならば、それは大変誤った宗教的な考えということになろう。そして、そういう人を見捨てる宗教的な組織があるとするならば、それは大変誤った組織ということになろう。いいですか。

そして、このポア・コース。まあ、ポアという意味合いから説明すると、これは、高次元の身体に意識を移し変えるということだ。高次元の身体というのは、要するに微細な身体だね。これは、天界を超えた高い世界の身体、あるいは、光の身体のことをいいます。ポアというのは、そういうことです。

そして、先程の菩薩たちは、ポアの修行を実践することによって、この世で幸福になり、周りの人も幸福にすることができる。そして、ステージも高まっていく。これが、ポア・コースのもともとの狙いなんだ。

◉在家修行者の手本——アナータピンディカ長者

わたしの好きな仏教徒がいる。それはアナータピンディカ長者だ。これはしょっ

ちゅう出てくる話だけどもね、アナータピンディカ長者という方は、皆さんもよく知っている祇園精舎、あれを寄進なさったお方だ。彼は釈迦牟尼の説法を聞き、わたしは今生で解脱をするのはよそうと考えられた。わたしは釈迦牟尼の教団を支えようと考えられた。いいですか。祇園精舎を布施したほどの方だ。功徳も多大に持っていただろう。なぜ彼はヨーガタントラの修行をやらなかったんだろうね。それはこういう理由だ。

アナータピンディカ長者というのは、大変なお金持ちだ。そして、彼に仕えている人たちもたくさんいたし、もちろん奥さんや子供もいた。だからだよ、もしアナータピンディカ長者が修行者となったならば、彼に仕えているシュードラたち、つまり従者たちは路頭に迷うわけだ。

そこで、長者は考えられた。わたしは今生では釈迦牟尼のお手伝いをしよう。実際はアナータピンディカ長者は釈迦牟尼に帰依なさっていた。しかし、釈迦牟尼の弟子のサーリプッタと最も近かったわけだね。「わたしはサーリプッタを支えよう。釈迦牟尼を支えよう」、そうお考えになったわけだ。彼はそれまでの豊

かな生活を一切放棄し、ぼろ布をまとい、周りの人を幸福にし、そして仏教教団を支えたわけだ。

じゃあ、アナータピンディカ長者は何を求めたんだということになる。君たちなら、「わたしは病気をしたくない。長生きをしたい。若くありたい」と考えるだろう。ところがだよ、『阿含経典』の第四巻『天部相応』を見てごらん。こう書かれているよ。年老い、病至り、そして亡くなったアナータピンディカ長者は、第四天界の兜率天（とそつてん）に生まれましたと。おかしいね。だって修行というものは、病気をしないために修行するのではないのか。ところがそうではないね。ちゃんと年をとって病気をして、そして死んでいったと書かれている。

では、アナータピンディカ長者の功徳は何に変わったんだ。これは二つの功徳に変わっているわけだ。一つは、兜率天という高い世界――この兜率天というのは、今のオウムと同じように真理のみを説き明かしている天界です。まだ、粗雑次元にある。だから、肉体を持っています――そこに生まれ変わったということだ。もう一つは、アナータピンディカ長者のレベルというものは、もはや病気に

なってもそれを苦に感じないほどのものだった。そのレベルに達したということがそうです。いいですか。

ところで、大内君（当時の大阪支部局長／現在のプンナ・マンターニプッタ正悟師）がね、奉仕の修行によって一週間ぐらい前に悟りました。まだ、セルフ・リアライゼーション、最終的な悟りではないけれども、それからニルヴァーナというもの、タントラの経典に書かれている、この現象界というものと、それからニルヴァーナというもの、これが同一である、つまり現象界の苦の裏側には楽が存在しているのだということを、彼は悟ったわけだ。そして、この大内君が今やっていることが、本当の意味で、ヨーガタントラ、シッディ、ポアのコース中で、ポア・コースの狙いなんだね。

◉長者の修行――布施、持戒

話が飛んだから元に戻そう。いいですか。そのアナータピンディカ長者は釈迦牟尼の瞑想中、しょっちゅう出ていらっしゃるわけだ。そして、いろいろと会話をなさる。真実の交歓をなさるわけだね。おそらく、この中でわたしよりも先に

肉体を捨てられて兜率天に上がられた方は、このお二人と同じように、わたしと会話をすることになるだろうね。

では一体、アナータピンディカ長者に与えた釈迦牟尼の修行というのは何だったんだということになるよね。これは簡単なことなんだよ。まず、三つの布施をしなさいと。これは、財施・安心施・法施だ。そして、持戒です。これは生き物を痛め付けてはいけない、慈しみなさいと。盗んではいけない、施しなさいと。愛のないセックスをしてはいけない。嘘をついてはいけない。それからもう一つ、これは皆さんにちょっと苦痛かもしれないけど、酒を飲むなと。この五つだ。それと、簡単な瞑想だ。じゃあね、なぜこんな簡単な瞑想と、この布施・持戒によって、第四天界という高い世界に行けるんだということになってくるよね。

◉殺すなかれ――怒りの炎の滅尽

それはこういうことなんだよ。地獄の本性というものは、怒りの炎なんだ。そして、怒りは何を表わすかというと、他を傷付けることを表わす。つまり、殺生

をするなかれ、この背景にあるものは、怒りの炎を滅しなさい、ということなんだ。そして、この怒りの度合によって、地獄の世界も違ってこよう。

じゃあ、地獄というものは殺生が原因であり、殺生とは自己を守るための怒りの炎が原因であることはわかったね。では逆の言い方をすれば、怒りの炎を、他を害する気持ちをあなた方が捨てたならば、あなた方に地獄の道はないということになるね。

わたしの周りの女性でね、堕胎経験者が二、三人いる。例えば、その人たちが本当の修行に入ったとき、その人たちのカルマはどんどん出てくる。恐怖心も出てくる。そのとき、その人たちはだいたい耐えられなくなる。つまり、それは何を意味しているのかといえば、縁によって生じたものは、必ず縁によって返るんだよ、ということだ。わたし自身が身をもって体験している。

だからいいですか。今日を境にできるだけ殺生してはならない。そして、生き物を慈しみなさい。その生き物に対する愛というものも、人間と同じように平等な愛でなければならない。

◉盗むなかれ――貪りの滅尽

次にだ、盗みはどうだ。盗みの気持ちというのは欲張りの気持ちから出ているね。ストレスで盗んでいる人がいるけど、あれはやっぱり心の内側に欲張りの気持ちがある。そしてそれはね、貪(ちん)・瞋(じん)・癡(ち)の「貪」と関係している。いいですか。その盗みというものの背景にある貪(むさぼ)りを滅したならば、わたしたちはどの世界に行かなくて済むか。餓鬼の世界に行かなくて済む。

仏典ではこう書かれているね。餓鬼の世界というものは、例えばここに食べ物がある。それを口に入れようとした瞬間に食べられないものに変わってしまうのだと。しかし、それは真実ではない。餓鬼の世界というものは、ここに一個のおまんじゅうがある。それはね、本当は十人あるいは百人を生かすことのできるおまんじゅうだ。しかし、それを百人で争って、そこで力の戦いが起きるよ。で、その一個のおまんじゅうを食べてしまうと、もう食べ物がないわけだよ。そうすると、勝った一人はお腹の中に入って瞬間的に満腹になる。しかし、それはすぐに消えてしまう。もちろん、食べられなかった九十九人も飢えに苦しむことにな

ろう。これが、餓鬼の世界だ。

じゃあ、どうだ。この地球の精神レベルは落ちているとわたしはいっている。この世に餓鬼の世界がないかと考えてごらん。ね、ないことはないね。食べられないで死んで行っている生き物たちがいるわけだね。食べられないで死んでいっている人間がいるわけだ。一方では、例えば残飯としてものすごい量の食物が捨てられている。これを考えたらわかるとおり、どうやら餓鬼の世界はあるね。

ただね、この地球上にある餓鬼の世界というのは、模擬のものであって、本当の餓鬼の世界ではない。実際にはもっと苦しい。何が苦しいかというと、例えばだよ、ここに食物があって、それが食べられなくて死んでいく。死んでいったら、次の転生ができるわけだから楽だよ。そうだろう。ところが、もし死ななかったらどうなるか。最も苦しい飢えの状態で死ななかったらどうなるか。これが餓鬼の世界だ。じゃあ、その餓鬼の世界を滅するためにはどうしたらいいか。それはわたしが先程言ったとおり、他人のものを盗むなかれ、そしてそれだけではなく施しなさい、これを実践することだ。その背景には貪りを滅せよという意味合い

があるんだね。いいですか。

◉嘘をつくなかれ――タマスの滅尽

じゃあ、次にくる動物の世界はなんだ。これは二つの系統があるよ。一つは快楽主義、もう一つは曖昧さ。今日はね、このうちの一つ、曖昧さに絞って動物界に生まれ変わるための条件ということを考えてみよう。

君たちの周りに動物はたくさんいるよ。じゃあ、この動物たちは、本当に人間が生まれ変わったものなのか、あるいは高い世界から生まれ変わったものなのか、という疑問が出てこよう。わたしはそうだと言い切る。なぜだそれはと聞かれたならば、例えば人間のトイレでおしっこやうんちをする猫とか、手できちんと襖を開け閉めする猫とか、知っているよね。うちの猫はそうだよ。まあ、この猫についてはわたしと縁のある人間だという話をしているけどね。あとは、例えばテーブルの上でしか食事をしないニワトリとか。いや、いるんだよ、実際に。

そういうことを考えればわかるように、その動物たちは人間の記憶を持ってい



るわけだな。例えば人間もそうだろう。苦しくなったときにミャオーと鳴くとか。いや、いるはずだよ、これは。急にワンと吠えてみたくなるとか。これは要するに動物界の記憶だ。だからそんなに差がないわけだ、人間と動物というのは。

では、どうして動物に生まれ変わるのかというと、曖昧さなんだね。では曖昧さの背景は何かというと、これは嘘なんだ。例えば、わたしがあなた方にいい人として見てもらいたいと思ったならば、いろいろと嘘をつくだろうね。あるいは曖昧に答えるだろう。それは、タマスのエネルギーを活性化して、わたしの周りに壁をつくるわけだ。はたから見ると、タマスのエネルギーは綺麗だから、「ああ、あの人はいい人だ」と思う。ところが、中のわたしは腐っている。そして、よく考えてごらん。わたしのサイドから外を見ても同じなんだよ、それは。曇りガラスで見ているようなものだ。当然、真実は見えないわけだ。そこから、曖昧さが生じてくる。

よくあなた方もこういう経験をしているでしょう。あの人はいい人なのに、どうして人生が悪いんだろう。どうして、不幸が続くんだろう、と。それは別にい

い人ではないんだよ。あなた方の目がタマスにだまされているにすぎないわけだ。いいですか。実際にはその内側のタマスを背負っている人は、ものすごい葛藤をしてね、苦しんでいるわけだ。自己のついた嘘によって。はい、これで地獄に生まれない道、餓鬼に生まれない道、動物に生まれない道を説いたよ。

◉地獄を破る十の戒め

わたしも、現代の仏教徒に批判されないように、殺生、偸盗（ちゅうとう）、邪淫（じゃいん）、妄語、綺語、悪口、両舌、あと貪・瞋・癡を十悪といっているけど、実際よく考えてごらん。殺生と怒り、瞋ね、これは表裏じゃないか。偸盗と貪り、これは表裏じゃないか。そして無智、言い方を変えれば曖昧さ、これと癡、これは表裏じゃないか。どうだ。

つまり、殺生の裏側にある慈しみなさいという心の実践ができたならば、怒りを滅する実践はいらない。偸盗の裏側にある、貪りを捨て、施しなさいという意

味合いがわかったならば、貪りは滅する。それから嘘をつかないという言葉の裏側にある曖昧さを捨てなさい、はっきり自己を見せなさいということを実践できたならば、無智を滅する修行はいらないことになるね。ほら、戒が減ったよ。これで、七つになった。いいですか。

これによって、まずわたしたちは地獄へ生まれないだろう。釈迦牟尼はこの三つ（地獄・餓鬼・動物）をひっくるめて地獄といってるんだ。だから、地獄を破ることができる。ある宗派では、マンダラを掲げるだけで地獄を破るといっているみたいだけど、実際は不可能だ、そんなものでは。地獄を破るためには、先程言った、生き物を慈しみなさい、盗まないで施しなさい、嘘をつかないで真実を言いなさい、これあるがゆえに地獄を破ることができるわけだ。

◉愛のないセックスをするなかれ

次に、人間界の条件は何だということになってこよう。それはだいたいにおいて快楽だね。情愛だ、心だ、言い方を換えればば。もし、わたしたちが心で引っか

かっているのであれば、人間界に生まれ変わることになろう。では、それを戒めとしてどう表現するんだ。そこに邪淫が出てくるわけだね。快楽を貪る気持ち、愛されたい気持ち、それは真実の愛ではないよ。愛情を受けたいという気持ち、あるいはたくさんのものを味わいたいという気持ちだね。これが邪淫の背景にあるわけだ。

そうすると、釈迦牟尼の説いた、殺すな、盗むな、愛のないセックスをするな、嘘をつくな、これでわたしたちは地獄にも生まれない。餓鬼にも生まれない。動物にも生まれない。人間にも生まれない。これはすごいね。

◉酒を慎め

次に皆さんの嫌がる「酒を飲むな」がくる。これはちょっとショックだな。では、なぜ酒を飲んではいけないんだ。酒は飲めば気持ちのいいものだし、いいじゃないかと考えるかもしれない。だから、オウムでは酒を飲むなとは言っていない。慎みなさいよと言っているね。

では、飲んだらどうするのか。帰宅してからガージャ・カラニー（浄化法の一つ）をやって出してしまいなさいと言っている。今、人間界のレベルは低いから、酒というものが人と人とのつながりをもたらすものになっている。だから、当然飲んだら即ガージャ・カラニーをやって出す。悪いものを食べたら、ガージャ・カラニーで出す。それがオウムの修行だよ。そうすると、別に現世的な生き方をしていてもそんなに弊害はない。

では、酒を飲まないことによって、わたしたちにどのような恩恵があるんだ。わたしたちはね、君たちの知っている阿修羅の世界、人間界よりも一つ高い世界に生まれ変わらなくて済むわけだ。阿修羅の世界とは何だ。そこに行く人は、例えば自己を律し、戒を守り、しかし酒は好きである、そういう人だ。力優位の世界なんだね。酒を飲んだらどうなる。力強くなるでしょう、必ず。そして、自己を過大評価して、そのために自己におぼれてしまうわけでしょう。

例えば、あまり宗教的な批判はしたくないけども、太古神道ではない、現代の神道はその典型だね。そうでしょ。よく武将を祀っているよね。その武将は、禅

の修行をしたかもしれないけど、酒を飲み、自己を過大評価したがために殺されてしまった。つまり、力の世界、これが阿修羅の世界だ。

しかし、力だけではないよ。この世界には一応情もある。それから智性においては人間界よりも上だ。しかし、自己の力というものを、自己の本当の力というものを理解していない。だから、力によって滅びるわけだね。しょっちゅう神々と戦っているわけだね。

現代の科学は、阿修羅系統の科学だな。本当だったら、万民にプラスに働くはずのエネルギーを力のために使っている。そうだろ。ダイナマイトが発明されたときはどうだ。その前の火薬はどうだ。原爆はどうだ。核融合が発見されたときはどうだ。みんな戦争に使っているじゃないか。飛行機も使ったよ。船も使ったよ。これは完全に阿修羅の影響を受けている。

よし、じゃあ阿修羅もわかった。酒を飲むのはやめよう。禁酒できる人はやりなさい。できない人は、飲んだ後でガージャ・カラニーをやりなさい。いいね。

◉天界に向けて

それができたらどうだ。すると、その人の行く道は天界しかないわけだよ。特にだよ、それで瞑想をし、修行者を供養したならば、行く世界は一つしかありません。どこだ。兜率天だ、これは。第四位の天界、兜率天に行くことになろう。ほらほら、ポア・コースの意味合いがわかってきたね。天界に行くための道なんだよ。

まず明日から、例えばアリさんが歩いていたら、「ああ、アリさん、こんにちわ。今まであなたの仲間をずいぶんつぶしましたけど、今日からつぶしませんから」と、そういう気持ちで接してごらん。例えば、百円落ちていた。これは交番に届けてもあまり意味がないから、困っている人にあげるとか。もちろん大きなお金だったら、落とした人も困っているだろうけど、百円なら多分そんなに困らないだろうからね。

次に、今まで一日二十回ついていた嘘をまず、十回にしなさい。すると、こういう質問が出てくるだろう。

「いや麻原、それは困るんだよ。わたしは営業をやっているんだ。営業は嘘をつかなければならない。どうしたらいいんだ。」

と。そのときは、嘘をつかないで、ただ単に長所だけを言いなさい。長所を言うことと、嘘を言うことは違うからね。ちゃんと使用書には正確な説明があるだろうから。ただ単に長所をまくしたてる。これで少なくともタマスは半減します。

じゃあ、性欲が出てきて快楽を貪りたくなったらどうするんだ。これが一番困る問題だね。そのときはこうしよう。『マハーヤーナ』をちゃんと読んでね、ムドラーの項があるよね。そのモデルと一緒に月に二十日間、ムドラーを行ないなさい。それによって、性欲は消えるからね。

そうすると、あなた方はアリも殺さない。蚊も殺しちゃだめだよ。盗みもしない。嘘もつかない。そして、邪淫もしない。で、酒は飲むけれども、ガージャ・カラニーで出す。これができたならば、間違いなく天界に行くことができよう。

◉布施の必要性

では、その戒だけを守っていれば布施をしなくて済むはずじゃないかという問題が出てこよう。ところが、実際はそうではない。なぜだ。わたしたちは先程も言ったとおり、生まれて今まで相当の悪業を積んでいるわけだ。例えば、わたしの例にあるようにだ。これは少なくとも布施ぐらいしないと落ちないよ。「いや、わたしは学生で一日三百円で過ごしている。だから布施できないよ」と言うかもしれない。だが、そんなことはない。

もし、物質的な布施ができなければ、安心施というものがあるじゃないか。例えば、ボーディーサットヴァの会（オウム真理教の、奉仕活動を実践する集まり）に参加する。そこに非会員が来ていて、その人が苦しんでいれば、その苦しみをじーっと聞いてあげて、自分も一緒に苦しむ。これも布施だ。あるいは、月々送られてくる『マハーヤーナ』をね、友達に読んで聞かせる。これは法施だ。もちろん、買って読んでもらうのが一番いいわけだけども。だから、布施というものができないということはない。どんなものでもできるわけだね。そして、その上

に持戒があったならば、間違いなく天界に行くだろう。

◉「財施」の三つのステージ

では三つの布施について話そうかね。まず、物施だ。これは大阪の人たちはもう全力でやっているみたいだから、あまり話す必要はないけども、要するに限界まで布施しなさいということだね。一般的にいわれている布施をしなさいということだ。こちらの方が今日、立派なことを言われた。一回に千円使っている食費を八百円にしたら布施できるじゃないか、と。わたしはそれを素晴らしいことだと思う。そういうふうに限界、限界に布施の気持ちを持っていってごらんなさい。あなた方の心というのは、どんどん透明になってこよう。

そしてこの財施にはね、三つのステージがあるんだよ。三つの財施とは何かというと、第一に真理に対する布施だ。これは、例えばあなた方にとってオウムというのは真理であると。だから、オウムに布施しよう、というものだ。この真理に対する布施というものは、あなた方がもし来世でまた人間に生まれ変わり、苦

しんだときに、必ず真理に導いてくれよう。当然、このオウムの組織はあなた方を真理に導くだけでなくて、あなた方の心の引っかかり、あるいは物質的な引っかかりを取っていくわけだから、例えばあなた方が物質的に困ったとき、必ず助け舟が来よう。あなた方が本当に悩んでいるとき、必ずだれか聞いてくれる人が来よう。これが真理に対する布施だ。

次に偉大なのは、貧しい人に対する布施だ。しかし、仕事をしないで明日食べる米がない、これは貧しいとはいわないよ。本当に明日食べる米がなくて死にそうな人に対する布施だ。これはじゃあ、あなた方にどういう恩恵を与えてくれるんだ。これはあなた方が今生、あるいは来世で、物質的に困ったとき、あなた方の大きな力となろう。これが貧しい人に対する布施だ。

そしてもう一つ、どうでもいい布施というものがある。これは、会社に布施するとか、あるいは社会的な布施だね、一般的な。これはあまり影響がない。要するにこれは金を捨てるようなものだ。

では、最も悪い布施は何かといったら、これは真理ではないものに布施をした

場合だ。わたしはそれでとんでもない目に遭ったけども。その流れに入ってしまう。修行をすればするほど、頭の中が金の計算をし出すのだから怖い。これが正しくないものに対する布施だね。

だから、布施行は三段階あって、悪い布施という別格が一つあるわけだ。別格の布施をした人は、その流れの影響があるかもしれないから注意するように。

◉「安心施」の三つのステージ

次にくるのが安心施だね。この安心施にも三つのステージがあるよ。その最も素晴らしい安心施というのは、あなた方が苦しんでいるときに、それでも周りの人の苦しみを聞いてあげることだね。さらにもう一つ、限界まで他人の悩みを聞いて、他人の苦しみを取ってあげる。これは最高の安心施だ。次の安心施はね、真理の流れに入っていて、他の人よりも苦しみは少ないけど、少し苦しんでいる。そのときに、相手の苦しみを取ってあげる安心施だね。そして、この二つに比べると最も効果がないのは、自分が楽しんでいるときに他人の苦しみを取ってあげ

る安心施だ。これは順次ね、あなた方に対して強いリアクションがあるだろう。
第一の安心施、これを実践している人は、今生でも来世でも、あなた方が本当に苦しんでいるときにね、あなた方の苦しみを取ってくれる人が現われよう。第二の場合は、あなた方がちょっと苦しんでいるときに、そういう人が現われよう。第三はどうでもいいときに現われる。これはちょっと困るね。あなた方の苦がないときに、苦しみを取ってあげましょうと現われてもしょうがないからな、これは。しかし、そういう意味合いがあるわけだ。まあ、この第三番目というのは安心しなさい。実際はあり得ないから。なぜないんだ。解脱をするまで苦は存在しているからね。だから成就者がいくら周りの人の苦しみを取ってあげて安心施をやったとしても、全然功徳にならないわけだ。成就して苦がないわけだからな、これは。

◉よい「法施」、悪い「法施」

はい、次は法施だ。この法施にはよい法施と悪い法施がある。これはグル、あ

るいは高弟たちにね、あなたは精進の段階に入ってますよと言われた人は、どんどん自分の中で法を咀嚼（そしゃく）し、展開していってよろしい。しかし、まだ法をろくに知らないで、勝手に解釈して法を展開することは正しくない。いいですか。

そして、法施の本当の意味合いというものはだよ、真実をダイレクトに伝えるということだ。この真実をダイレクトに伝えるとはどういう意味かというと、例えばこういう説法会に人を連れてくる。これも法施だ。あるいは、『マハーヤーナ』を読ませる。『イニシエーション』を読ませる。これも法施だ。あるいは、テープを聴かせる。これも法施だね。では、わからないで咀嚼して、間違った法施をしたらどうなるかというと、あなた方の今生、あるいは来世において、間違った情報をインプットされて修行者としてつぶれていってしまう可能性がある。これは気を付けなければならない。

　だからあなた方は、今自分はどのステージなのかということをはっきりと認識しなさい。つまり、まだ真理の法を理解できていないから他人に直接『マハーヤーナ』を勧める段階なのか、あるいは法を咀嚼して自分の言葉で法を説く段階なの

かを。そして、それを認識することによって、あなた方のステージというものは上がってこよう。

◉貪・瞋・癡の滅却――幸福な来世へ

さあ、財施、安心施、法施について説いたね、わたしは。それから、盗むなかれ、殺すなかれ、邪淫をするなかれ、嘘をつくなかれ、酒はできるだけ飲むなと。そして、皆さんがポア・コースのテキストに載っている簡単な瞑想を一日三十分ずつくらい実践するならば、必ず天界へは行くことができよう。それはわたしが保証しよう。もちろんこういう説法会には出てこなければ駄目だよ。

でも保証されたって、例えば死んで地獄に落ちたらどうするんだという疑問が出てくるかもしれない。それはね、あなた方の心がどんどん軽くなっていくから心配しなくてよろしい。重たくなってきたら言いなさいよ。それは大内君が解決するだろうし、シャンティーさん（現在のソーナー師）が解決するだろうし、もちろんわたしがここにいるときには、わたしが解決しよう。

心から出てくる怒り、その怒りの炎によって、わたしたちは地獄に落ちるわけだから、心の中から怒りが消滅したらどうなるか。わたしたちは地獄に行かないよ。そうだろ。例えば、貪りの炎でわたしたちは餓鬼道に入るわけだから、その貪りの気持ちがなくなったら、餓鬼道には落ちないでしょう。嘘をつかなくなったら、当然動物界には行かないでしょう。

これはちょっと余談になるけども、人間の言葉の数と、動物の言葉の数を比較してごらん。人間の言葉の数の方が多いね。あなた方が猫や犬の言葉を理解できればわかるけども、本当に猫とか犬の言葉は少ないものだ。これはなぜかというと、曖昧にしているわけだから、言い方を換えれば言葉がいらないんだよ。例えば、暑いとか寒いとか、好きだとか嫌いだとか、食べたいとか興奮しているとか、こんなものでいいわけだ。ところが、人間は動物に比べたら正直なんだね。いいですか。

だから、少なくとも来世は天界に行こう。

一九八七年九月十四日　大阪支部にて

第四話　欲六界のカルマを切れ！

「この心が、この世界へPART-2」

◉ザンゲ——幸福への第一歩

じゃあ、その六つの欲望の世界を超越するためにはどのようにしたらいいかと、あるいは欲望の世界だけではなく、色界(しきかい)、無色界を超越するためにはどのようにしたらいいかという一つの疑問が出てこよう、ね。

あなた方は、ここに汚い車があったらどうするか。徹底的に汚れている車があったらどうするか。そして、その車が傷付いていたらどうするか、ね。まず、綺麗に洗車をするんじゃないかな。この車を綺麗にしたいと考えたら、まず洗車をするだろう。そして、それがザンゲだ。つまり、ね、無始の過去から、始まりとて

ない過去からわたしたちが積んできたいろんな経験、その経験のけがれによって、わたしたちの真我——正確にいうと真我ではないね、これは。自性とか、三グナといってもいいかもしれない——というものはけがれている。コーザルのデータはけがれている、ね。そのけがれているデータを、まずザンゲによって洗うんだよ、一生懸命。そうすると、あなた方の車の傷が見えてくる、ね。例えばね、ワックスの、かかり具合みたいなものがはっきりわかってくる。

そのときに、あなた方が、例えば六つの極限の修行——布施それから持戒・忍辱・精進・禅定・智慧——という六つの極限によってね、その車の傷付いている所にペンキを塗り、あるいはワックスをかけて、外装は綺麗に仕上がっていくわけだね。だから、まずザンゲ、次に功徳、そしてそれと並行して修行をすることによって、この車というものは、綺麗な形に回復されるわけだね。

もし、初めにザンゲというものがなければだ、それはちょうど、汚い車に一生懸命ペンキを塗っているようなものだね。傷はそれで修理できるかもしれないけど、汚れは逆に取れなくなる。いいかな。そしてこれが、あなた方が、より良い

生活をするためのね、幸福な生活をするための条件であるということができる。その状態になると、すべてのものをね、ありのままにきちんと映し出すことができるようになるし、そして、その結果として、判断も間違わなくなるんだよ。

一般的に修行というものには、まあ特に日本の修行というものには、ザンゲが欠如している。ただ単に功徳を積みなさいといっている。しかし、それは正しくないんだね。自己を反省し、それをきちんと受けてくれる大師のもとでザンゲをし、そして浄化してもらう。その上にね、功徳あるいは修行という、ワックスやペンキを塗りなさい。そうすることによって、あなた方は幸福な人生を送ることができるだろう。

ザンゲのやり方というのは、あなた方の心に引っかかっていることを反省することだから、わかるよね。まあ、根本としては、十悪を背景としてザンゲをする。十悪はわかるね、殺生・偸盗(ちゅうとう)・邪淫(じゃいん)・妄語・綺語・悪口・両舌、そして貪(とん)・瞋(じん)・癡(ち)だったね。この十悪を根本として、それに対してザンゲを行なうと。いいね。



◉地獄のカルマを超える——怒りの消滅

そして、次にだ、地獄のカルマの消滅、餓鬼のカルマの消滅、動物のカルマの消滅、そして人間のカルマの消滅、阿修羅のカルマの消滅、それから天界のカルマの消滅はどのようにしたらできるだろうかという問題になる、ね。

一般的にね、ヨーガ修行においては、怒りに対しては愛の実践をしなさいといっている。しかしだよ、周りが嫌いで嫌いでしょうがないのに、いきなり愛の実践をしなさいといっても、できるわけがない。どうだそれは。できると思うか。もしそれができるのだったら、オウムはいらないよね。

じゃあ、どのようにしたら、その怒りのカルマの消滅ができるかという問題についで話すとだ、まず、怒りのカルマがなす結果について徹底的に考えなければならない。例えば、怒りまくっていると地獄へ至るんだと。あるいは、現代医学的にいうならば、血圧が高くなる。あるいは、いろんな人と争わなければならないだろう。あるいは、自分の生活環境を狭めているんだとか考えるわけだ。わかるよね、言ってることは。怒ることによって、争うことによって、そこでぶつか

るわけだから、敵がたくさんできる。それによって、自己の生活環境というのはどんどん狭められるわけだ。いいかな。それを考えていくと、怒りのカルマというものは何一つメリットを与えてくれない。そう言うことができるわけだ。

しかし待てよ。この信徒さんの中にはね、ちょっと変わった方がいらっしゃって、「いや、怒りにはこういうメリットがあるんだ」という人もいらっしゃるかもしれないから、聞いてみようか。どうですか。いないか。

（信徒A）相手になめられなくなる。

（尊師）本当になめられなくなると思いますか。なめられなくなるときの背景というものは、相手に恐怖心を持たせることですよね。恐怖心というのは一つのエネルギーだ。で、そのエネルギーを受ける心の働きというものは、どうなると思いますか。つまり、恐怖心を生起させるということは、相手に嫌悪させることになりますよね。どうですか。例えば怒りますよね。すると相手は恐怖する。この恐怖心を持っている人は、怒った人を好きになると思いますか、嫌いになると思いますか。

つまり一人の、本当に打ち解けられる仲間というものを、相手というものを失うことになりますよね。それはどうですか。ということは損でしょうかね、得でしょうかね、それは。

（信徒A）損です。

（尊師）損ですね。はい。他にあるかな。

（信徒B）仕事で失敗したときなんか、そういう怒りをベースにしてですね、逆に仕事に打ち込めるっていう状況があるんですけれども……。

（尊師）それは自己に対する怒りですか。

（信徒B）そうですね、主に自己に対する怒りなんですけれども、まあ若干、他に対する怒りもあります。

（尊師）若干、他に対する怒りもありますか。じゃあ、そこで質問しましょう。そこで怒らなければ結果は出ないと思いますか。

（信徒B）それはわかりません。

（尊師）それを試されたらいいですね。そこまでのエネルギーがあるとしたなら

ば、もう初めから怒らなくても結果は出るはずです。わかりますか。例えば、怒っているときの思考力というものは、正常な思考をしていると思いますか、していないと思いますか。

（信徒B）それに左右されることはあります。

（尊師）ありますね。それは損失でしょうかね、それとも利益でしょうか。

（信徒B）損失です。

（尊師）損失ですね。ということは、正常でエネルギーの強い状態だとしたならば、そちらの方がベターでしょう。ですからそれは、経験から来ている一つの誤りです。だから試してみてください。普段はここで怒りを発して仕事を進める。しかし、そうではなくて、怒りを発しないで仕事が進められるかもしれないと。試してみてください。そして結果を報告してください、わたしに（笑）。必ずそれはできるはずです。よろしいですか。

（信徒C）社会的な問題で、例えば南アフリカの黒人差別に対する怒り、あるいはアメリカの黒人差別に対する怒り、その怒りがですね、黒人にある程度の平等

の権利を与えてきたのではないかと思いますし、ベトナム戦争の映画を見てもですね、悲惨な状態で子供たちが死んでいく、しかしどうにもできないという怒り、こうした社会的な問題に対する怒りは、わたしたちが人間の心を持っている限り、やむを得ずわいてくると思うのですが。

（尊師）一つ質問してよろしいでしょうか。わたしの記憶が間違っていなければ、毘流離王（びるりおう）という王様がいて、その人が釈迦族を滅ぼした。この話をご存じですか。そのとき釈迦牟尼は、その途中の道に三度お座りになって、二度までは、毘流離王は釈迦牟尼に敬意を表して撤退なさったんだけども、三度目は攻め滅ぼしてしまいました。このとき釈迦牟尼に怒りが生じたと思いますか。どうですか。

つまり、すべてのものはカルマであると。もちろんそれであきらめなさいと言ってるわけではありません。ただね、社会的なことに対して怒るよりも、今わたしたちのできること、例えばもしアフリカ問題に興味をお持ちだったならば、アフリカの人種差別をね、解決するような行動に出るというやり方の方が知的だと思いませんか。どうでしょうか。そして怒りは闘争を生みますよね。闘争によって

たくさんの血が流されますよね。どうでしょうか。
　そのアフリカ、あるいはアメリカ人の黒人に対してね、愛を持たれることは素晴らしい。ああかわいそうだなと、何とかしなきゃならないと思われること、それは素晴らしいと思います。しかし、怒らないでください。それはあなたのカルマにとって、あるいは、そういうことに対して怒る人のカルマにとって、あまりいいことではない。
　ただね、一つだけ認められている怒りがあります。それは愛によって生起した怒りですね。例えば、ここにN君がいる。そしてN君が、例えばどうしても修行が進まないとしましょう。そして、わたしはN君に対する憎しみは持ってないと、ね。そこで、表現上だよ、心の中ではなくて、表現として怒ることによってN君の修行が進むとわかった段階で、怒ることはできます。そのとき、怒っている人、例えばわたしが怒るのだったら、わたしの中に、何らかのメリットがあってはいけない。あるいは、対象者であるN君にね、嫌悪感を持ってはいけない。地獄に至るための怒りの条件というのは、そこに嫌悪がある場合生じるんだということ

を覚えておきましょう。

だから例えば、先程のアフリカの黒人、あるいはアメリカの黒人に対して慈愛をお持ちになる。そしてアメリカの白人に対して、怒りは生じない。南アフリカの白人に対して、怒りが生じない。しかし、その苦しんでいらっしゃる方のカルマに対して、怒りが生じる。つまり、「なんでこれだけ彼らは苦しまなければならないんだろう。かわいそうに」という慈悲と同時に、そこに怒りが生じると。その怒りは白人に向けられるものではない。もし、そのような怒りだったら、地獄に至るカルマとはなりません。よろしいですか。

◉餓鬼のカルマ超える——貪りの消滅

はい、では、次は餓鬼の世界に入りましょう。

餓鬼の世界の背景にあるものは、貪り(むさぼ)であると、ね。これは何かというと、例えば、もう自分自身は満ち足りているのに、自分は施しをしない。あるいは、人にくれてやるのだったら、自分が食った方がいいとか、自分が使った方がいいと

か思って、必要もないのに使うと。ね、こういう心の働きのときにだ、一体、中間状態に入った場合、何が起きるかと考えてみよう。

いいですか、わたしたちは心（コーザル）あるいは、そこから生じるアストラルだけしか持って転生できないんだね。そして、そのデータというものは、速やかにわたしたちの輪廻転生と関係してくるわけだ。そして、もう一つのポイントは〝類は友を呼ぶ〟ではないけども、同じタイプの人が集まるわけだ、そこに。そして、同じ世界を形成するわけです。例えば、他の宗教組織からいらっしゃった方がよくおっしゃることは、オウムの人は明るいと、ね。これが、オウムの一つのカルマだね、例えば。オウムの世界だ。いいかな。

ここに例えばね、百キロの米しかないとしようじゃないか。そして、貪りの強い人が百名いた場合と、貪りのない人が百名いた場合とでは、何が起きるだろうか。どのように変化するだろうかと考えてみましょう。ね、どうですか。前者は、そこで争いが起きるよね。自分だけの食べ物を確保しなきゃならない。そのとき、当然等分には分割しないだろうね。というのは、心の働きが貪りに支配されてい

るからだ。そうすると、そこで当然争いが起きる、あるいは食べることができない人が出てくる。これが本質的には、餓鬼の世界を形成する基礎なんだ。
一方では、貪りの少ない人が百名存在して、百キロの米に対して、均等分割して、みんな同じように食べ、同じようにひもじい思いをなくすこともできる、ね。そして、条件は同じように百キロの米であり、百人の人間であるということ、人間というのは魂であるということだね。しかし、前者は餓鬼の世界を形成する。後者は高い世界を形成するということがいえるわけだ。
今回、皆さんのお布施によって道場ができたのもだ、これは、あなた方がオウムを支えるために布施してくれたものをスタッフが大切に使い、自分たちのために使わないで、それを道場建立に向けたからできたわけだね。もし、オウムのスタッフがだよ、貪りの集団だったならば、餓鬼の世界に没入していたならば、ね、いくらお金を布施されようとも、いくら物を布施されようとも、あっさり使ってしまうということになるわけだ、ね。そしてそれが、餓鬼の世界の条件なんだね。
また、こういう種類の餓鬼もある。経典には、例えば、物を食べることはでき

たんだけど、その胃に入った物が、消化の炎によって焼かれると同時に、身体も焼かれたとか、食べようと思ったものが、みんな石に変わってしまったりとか、いろいろ比喩があるんだね。まあ、これは実際に存在する世界だけども、それは、あくまでも先程言った心の働きによって生じているわけだね。だから、餓鬼の世界を滅するのはそれほど難しくない。それは、貪りをね、今から少しずつでもいいからやめていきなさい、努力しなさい、これだね。

◉動物のカルマを超える——無智の消滅

それからもう一つだ。第三番目の動物の世界へ転生しないためには、どのようにしたらよろしいだろうか。いよいよ人間界と近くなってきたね。それは、このようにして解決できる。

動物の本質を見ると、楽しみのみを追求している。それは食べること、盛りのときのセックス、それから遊びだね。先程言ったように、いろんな動物はいろんな遊びを持っている、ね。そして動物は、あなた方と同じように、時間というも

のを持っているわけだ。だから、遊びができるわけだね。そして、これを、ね、有暇といってるね。有暇というのは何かというと、「時間が自由になる」ということだ。ね、その暇の間にだよ、「なぜわたしたちは生存しているのだろうか。そして、なぜわたしたちは苦しんでいるのだろうか。どのようにしたら、わたしたちは苦しみから解放されることができるのだろうか」ということを考えて生きている人は、最終的には真理に到達し、その暇を修行に向け、そして自分たちが生きていることの意味合いを理解し、それから脱却することができる。

しかし、そうではなくて、暇があればいろんな享楽にふけり、あるいはいろんな遊びにふけり、あるいはいろんな煩悩を満足させている方向に心が向いている人、この人は間違いなく動物へ落ちますよということだ。

じゃあ、前者と後者の違いは一体何だろう、ね。それは、きちんとした思考能力、あるいはね、物事をはっきりと見つめる力、あるいは正しい行為、こういうものが背景となってだ、わたしたちは、それに没入しなくなって、その無智のカルマというものから脱却することができるようになるわけだ。だからポイントは、

今生きていることの素晴らしさを実感することだ。その、生きていることの素晴らしさとは一体何だと。わたしたちはものを考えることができる、そしてわたしたちは真実を知ることができる、この素晴らしさに気付き、そして真理を実践する。例えば、一生懸命教学をする、『マハーヤーナ』を読む、『マハーヤーナ・スートラ』を読む、あるいは『イニシエーション』を読む、こういう実践をね、あなた方がなすならばだ、あなた方は無智のカルマから解放され、動物の世界に生まれ変わる因というものをなくすであろう。ね。ここまでは理解できるか。どうだ。

◉人間のカルマを超える――執着の消滅

そして、四番目は、わたしたちの住んでいる人間の世界だ。この人間の世界はね、背景となっているものは情だ。そしてそれは、先程の二番目の、貪りのカルマと近い。だから、本質的にはだよ、貪りのカルマさえ消滅すれば、人間界へ生まれ変わる可能性というものは消えるわけだ。ね、執着の背景は貪りだ。しかし、それがいい形で現われた場合、わたしたちは人間界に生まれ変わります。悪い形

で現われた場合、わたしたちは餓鬼の世界に生まれ変わるよね。いいかな。じゃあ、どのようにしたら、人間界のカルマを切り、もっとすべてのものをありありと、ありのままに、正確に見ることができるかと考えるならばだ、それは、情の無常性――無常というのは常ではないということだ――そのわたしたちが引っかかっている執着の無常性というものについて検討すればよろしい。考えればよろしい。

執着の無常性とは何だと。例えばここに美しい恋人がいたと。この美しい恋人は今は美しい。しかし、果たして二十年後どうだろう。三十年後どうだろう。五十年後どうだろうとね、それを考えたならば、それは無常である。ね、もしもだよ、あなたが美しさのために執着しているならば、それは無常である。そういうことに気付けば、そこから一歩離れた角度で恋人を見つめることができよう。そしてその段階で、もしその人に対して、愛着する要因が他にあるなら、それについて検討してみたらよろしい、ね。

しかし、一つだけあなた方は愛着を残さなければならないものがある。それは

何かというと、あなた方より心の綺麗なものに対する愛着だ。あなた方より真理を知っているものに対する愛着だ。あなた方がそれに執着するならば、必ずその人は、あなた方の執着を切り、あるいは他の煩悩を切り、今より高い真理の世界へ導いてくれるだろう。だから、例えば恋人を選ぶ場合、相手の心の働き、その人の心が綺麗であるか、けがれているかを検討したらよろしい、ね。

そして、いいかな。もし、執着というものがあなた方になくなったならば、例えば親と子の縁を見てみようじゃないか。これはミラレパの言葉だけども、

「みんなは、子供がかわいい、かわいいと言うけども、息子はどうだ。ね、小さいときはすごくかわいい、しかしそれが少し大きくなったら、どこかわけのわからん所から女性を連れてきて、そして自分をいじめる。あるいは女の子はどうだ。小さいときはものすごく綺麗で、かわいい。しかし、ある日突然、わけのわからん男を連れてきて、やはり同じように出ていってしまう。その実態のどこに愛着する要因があるんだ。」

と、成就者ミラレパは言っている。いいですか。

そしてもし、そのような目で、真実の流れだけを見つめるならばだ、たとえ親子が一緒に生活していようと、いいところは誉め、悪いところはたしなめ、正しい家庭生活ができるだろう。そして、たとえ自分を裏切り、離れていったとしてもだ、それに対して心というものは苦悩しないだろう、ね。これは、現実的な生き方をする上においてもだよ、大切なところなんだよ。だから、決して必要以上の愛着はしないと、ね。

ただ、じゃ無責任になったらいいかというと、そうではない。例えば、ここに親がいる、ここに子がいる、これは与えられたものであると、ね。だから、自己の責任において成長は見届けなきゃならないし、あるいは、もし一緒に真理を学び、実践していきたいと考えている両親だったならば、当然大切にしなければならない。なぜかというとね、それはいい縁だからだね。

しかし、こういう場合には、縁を切ってもよろしい。例えば、ここに真理というものがあるとしよう。そして、あなた方がその真理を実践しようとすると。しかし、親が無智のためにだよ、あるいは子が無智のために、それを阻害すると、

ね。その場合には、それは切りなさい。なぜならば、長く引っ張れば引っ張るほど、相手に悪業を積ませることになるからだ。わかるね。はい、これで一応人間界は終わりと。だから情についていては、無常について考えるとよろしい。そしてもう一つは、本当の意味での関係について考えると。いいかな。

◉阿修羅のカルマを超える――闘争心の消滅

そして次は、阿修羅に入っていくわけだ。ここで、阿修羅のカルマを切る修行をする人は、もう既に、怒りのカルマの消滅、あるいは布施や奉仕の実践ができているだろう。あるいは教学もできているだろう。あるいは情について、ある程度考えることもできるようになっているだろう。ここで初めて、愛の実践を出せばよろしい。

阿修羅のカルマというものは、背景になっているものは怒りだ。怒りというのは、自分より上の者がいる、これが気に食わないという感情だね。だから、これを切るためには、相手のいいところを徹底的に見つける、ね。そして、相手の悪いところを見たとき、それが自分にもあるのではないかと考えると。まず、ここ

から入るわけだ。

つまり、自分よりも上であるということで、正しくものを見ていない部分があるからね。それをいったん、ね、同じ俎上に引きずり下ろすわけだね。そして、そこで、相手の善行に対して、徹底的に心から称賛すると。あるいは、相手のいい性格について、それを心の中に刻んでだ、そして、誉め称えると、ね。こういう行為をなすならば、自然と、相手と闘争する気持ちが薄れてくる。それによって、阿修羅のカルマを切ることができるんだ。ね。

それから、阿修羅のカルマを早く抜けるためには、自分よりも今、上に行っている人は、自分より徳があったんだと考えればよろしい。だから、そこで闘争して悪業を積むより、功徳を徹底的に積んで、善行を積んで、そして、自分の修行ステージを上げようと考えればよろしい。結果的には、それが阿修羅のカルマを切り、いち早く最終ステージに到達する道ということになる。いいかな。

◉天界のカルマを超える——満足の消滅

そして最後、天界のカルマだ。これは一応すべてがそろった状態だ。しかし、これもさっき人間の情で説明したとおり、すべては無常であると、過去においてなした功徳によって今の環境があると。過去においてなした功徳によって今の状態があるわけだから、今ここでわたしが、満足した生活をしているということは、これは過去において積んだ功徳を消耗しているんだと考えなさい。ね、そして、功徳というものは、積めば増えるし、使えばなくなる。だから、ここで満足してはいけない。そして、徹底的に修行に励むわけだね。それが天界のカルマを切る方法だ。いいかな。

そして、六つの欲の世界から解放されたとき、心は自由な状態になる。ね、もちろん完璧な自由はまだここではないけども、しかし、一応は苦悩から解放された、自由な状態が現われると考えてよろしい。いいですか。

一九八八年七月三十一日　名古屋支部にて

修行者②　口のカルマ篇

◎何気なくやっている井戸端会議も……

山口貴子

オウム真理教に入信する前、主婦でもあったわたしは、あの〝井戸端会議〟を特に煩わしく感じていました。でも、当時はそう感じながらも半分は楽しんで参加していました。

その中で、Aさんの思い込みからの架空の話を周りが信じてしまい、わたしとBさんに対する皆の態度が冷たくなってしまったのです。そのときは引っ越したいと思うほど悩みましたが、オウムに入信し、口のカルマについて知り、なぜ嫌なことが起きたのかが理解できました。

それからは悪業を積まないように心がけると、真理を語る人が自然と集まってきました。

◎結果的に良くなった関係

岡村秀作

「もうこんな職場辞めよう。我慢できない！」と思ったのは、オウム真理教に入信後、一年半経ったころでした。当時の同僚であったOさんの悪口・両舌に悩まされていたのです。わたしとも何度も口論になり、別の同僚のM君とはどうにかならないものかと頭を悩ませていました。

そんなある日、わたしは、「これはわたしが過去においてなしてきた口のカルマが返ってきているんだ」ということに気付きました。気付いてしまえば当たり前のことで、口論になったことも、またカルマを積んでいたのでした。

その後、M君と四無量心の一つである称賛

実証——こんなところにもカルマの法則が！

の実践をOさんに対して始めたところ、今までのOさんとは思えないほど変わり、真理の実践の素晴らしさを感じました。

◎夫婦仲睦まじく

落田耕太郎

わたしたちは、妻の友人の導きにより夫婦でオウム真理教に入信しました。夫婦で励まし合って真理の実践をすることによってエゴが弱まり、相手の真の幸福、真の成長を考えられるようになりました。「どうしたら相手が多くの功徳を積むことができ、幸福になれるのか」と思いやり、高め合うことができるようになったのです。

例えば、わたしが、「今日は疲れているからバクティー（奉仕活動）は休もう」と思っても、妻が「ガンバッテ！ 一日一回は道場に行こうと決めていたでしょう」と言って励ましてくれ、逆のときはわたしが妻を同じように励ますのです。

こうしてお互いがいい意味でカルマを返し合うのはとても素晴らしいことだと思います。

◎真理にかなった言葉を

ゴーサーラ

ワークで、他の人に、結果的に誤った指示を出してしまったら、今度は自分が誤った指示を出され、失敗してしまいました。

また、よくないことでも他人に注意しなくなったら、自分も注意されなくなったので、これからは真理に即して修行生活に励みたいと思います。

仏陀の智慧が光を放ち混迷の時代を照射する

イニシエーション

麻原彰晃著

この名著はすべてを語っていた！

「解脱」「悟り」のプロセスを細やかに説き明かし、
最高の修行法を伝授する。
本来、選ばれた弟子にのみ明かされる秘儀——
ヨーガ・仏教の奥儀を極めた修行の正しさは、
誕生した三五〇名の解脱者が証明する。
さらに、自民党の大勝と大敗、円高の進行、
農作物輸入自由化など、
今日の世界と日本の動向を正確に予言している、
驚くべき記述の数々！



武田 健さん（東京都 学生）
「末法の時代は終わった」ということを確実に感じさせる本である。

松岡謙次さん（愛媛県 警備員）
読めば読むほど、「頑張ろう、やるぞ」と思わせるような素晴らしい本です。

山本 勇さん（石川県 会社員）
解脱するまでの心の状態が、多くの例を挙げてわかりやすく書いてある。

大森恵子さん（山口県 店員）
他の書では得られない絶対なる真理に触れることができた。

武田葉子さん（熊本県 主婦）
「人間として最高の、最終の目的は何か」ということがはっきり示されています。

本間智加子さん（東京都 経理事務）
宗教に対する偏見がいっぺんに吹き飛んでしまいました。

◎「解脱」「悟り」の真実／現代の仏陀麻原彰晃が最高の修行法を公開。
◎タントラ・イニシエーションの全貌／チベット密教・ゲールク派とオウムの秘儀を比較する。
◎確実に核戦争だ！／日本と世界の近未来を予言する。
◎総勢三十一名の体験談／「クンダリニーが覚醒する」「過去世が甦る」「悟りのプロセス」など、これが修行プロセスと霊的ステージの真実だ。

マハーヤーナ・スートラ

MAHAYANA SUTRA

麻原彰晃 著

解脱——それは光を超えて

魂は彷徨する、自由を求めて。
魂は飛翔した、歓喜の世界へ!!



解脱それは、一言では表現することのできない深遠で、広大な世界。今まで、曖昧に定義されていた解脱の段階と状態について、この本はわかりやすく解き明かします。真理の最終地点を目指すあなたにとって、欠くことのできない宝書。

B6判296ページ（巻頭カラー8ページ）定価3090円

●ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。

オウム出版　（本　社）〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
TEL 03（3439）6043　郵便振替 東京2-109325
（営業部）〒168 東京都杉並区宮前3-8-11
TEL 03（5370）1598

麻原彰晃の世界 シリーズ

人はなぜ麻原彰晃を尊師と仰ぎ、彼のもとに集まるのか？
その答えがこの本に集約されている。
麻原尊師の多彩な魅力を満載したファン待望のシリーズ。

絶賛発売中!!

PART-1



幸福に至る四つの実践

B6判 定価2500円

仏教の基本ともいえる「四預流支」。多彩な側面から縦横無尽に説いた画期的な説法群は、魂の解放を願う人にはもちろんのこと、幸福な人生を求めるすべての人に本当の生き方を指し示す。

PART-2



尊師、麻原彰晃が斬る！

B6判 定価980円

願望成就の秘訣、UFO&宇宙人、医学、幼児教育、音楽、食養、輪廻転生etc……。麻原彰晃尊師の魅力たっぷりの説法に、歌手、鹿島とも子さんとの対談も加わって、ますます充実。

PART-6
願望成就の秘法
（仮タイトル）

B6判　定価980円

近日発刊予定

PART-3

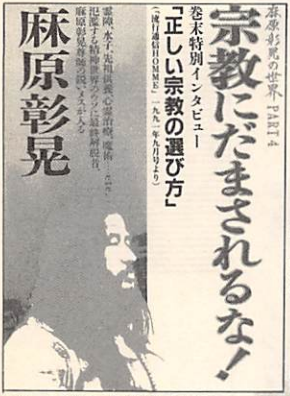


真実！六道輪廻

B6判　定価980円

永遠の真実〝六道輪廻〟。すなわち、わたしたちはこのサムサーラ（苦界）をさまよい、苦しみ続けているのだ。果たして、ここから抜け出すことはできるのか？ 臨死体験・大霊界・チャネリングなど、間違いだらけの死生観に終止符を打つ書。

PART-4



宗教にだまされるな！

B6判　定価980円

霊障、水子供養、先祖供養、守護霊……。この世にはびこる間違った観念を打ち破り、正しい道を説き示す麻原彰晃尊師。本当の幸福と心のやすらぎを得たいあなたに。



（価格にはすべて消費税が含まれています。）

● 全国の有名書店にてお求めください。弊社に直接お申し込みの場合は下記まで。

オウム出版　本社　〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL03(3439)6043 振替 東京2-109325
営業部　〒168 東京都杉並区宮前3-8-11 TEL03(5370)1598

「幸せになりたい！
でも、信徒になるのはちょっと……」
そんなあなたに贈る
最高のプレゼント！

『えんじょい・はぴねす』の定期講読を申し込まれた方は、様々な特典が受けられる〝ＥＨ会員〟になることができます。ＥＨ会員は信徒ではありませんが、自由にオウムのイベントに参加できますし、全国や海外の本部・支部をいつでも利用できます。お気軽にオウムをのぞいてみませんか？

特典の一部を紹介すると……
- ◉オウム主催のイベント、説法会等へ自由に参加可。
- ◉幸福情報を満載したＥＨ会員手帳をもれなくプレゼント！
- ◉成就者との対面および電話による悩み相談。
- ◉各種販売物を信徒価格で購入可。

〝えんじょい・はぴねすの会〟会員（ＥＨ会員）になるには？

※入会金無料。月刊『えんじょい・はぴねす』の定期購読を申込み、料金の払い込みが確認されるとＥＨ会員となります。
なお、定期購読の申込みは６カ月単位で郵送料込み6000円です。

※詳しくはお近くのオウム真理教本部・支部までお問い合わせください。



至福の未来をあなたの手に

オウム真理教

AUM SHINRIKYO

心身の悩みを解決したい
超健康体を得たい
豊かな生活を送りたい
素晴らしい人間関係を築きたい
スーパー・パワーを身につけたい
来世も幸福に生きたい
解脱し、永遠の至福を得たい



……などなど、様々な願いで頭がいっぱいのあなた。日本でただ一人の最終解脱者・麻原彰晃尊師率いるオウム真理教は、完璧な教義に裏付けられた最高の修行法で、あなたの夢を早く確実に実現します。素晴らしい未来を見つけに、あなたも気軽にオウム真理教の門を叩いてみませんか?

※資料請求券を貼付したハガキ、または電話にて最寄りの本・支部までご連絡ください。入信案内等、詳しい資料をお送りします。

キリトリ線

麻原彰晃の世界PART 5

資料請求券

◆各道場のご案内◆
富士山総本部　0544(54)1267
〒418-01　静岡県富士宮市人穴381-1
東京本部　03(3327)8565
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
新東京本部（杉並道場）03(3396)9393
〒167　東京都杉並区下井草4-4-4　井口ビル2F
大阪支部　06(397)1022
〒532　大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F
福岡支部　092(474)2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
名古屋支部　052(252)0709
〒460　愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
札幌支部　011(241)4938
〒060　北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
京都支部　075(371)3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
仙台支部　022(268)3904
〒982　宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
金沢支部　0762(51)8457
〒920　石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
高知支部　0888(84)8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
広島支部　082(264)6250
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
横浜支部　045(243)8079
〒231　神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢崎長者町ビル204
和歌山支部　0734(24)2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
水戸支部　0292(26)8044
〒310　茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
船橋支部　0474(66)4965
〒274　千葉県船橋市新高根6-26-18
埼玉出張所　0485(74)6205
〒366　埼玉県深谷市萱場441-8
布施精舎　03 (3476) 5065
〒150　東京都渋谷区道玄坂1-15-3　プリメーラ道玄坂317号
〈海外支部〉
ニューヨーク支部　212(421)3687
8 East 48th St. #2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228)616647
Auf dem Hugel 48, Endenich, 5300 Bonn 1, S.R.Germany

麻原彰晃の世界 PART 5
「絶対の真理　すべてを解き明かすカルマの理法がここに」
1991年11月 3日　初版発行
定　価　980円（本体951円）
発行者　松本知子　石井久子
編　集　オウム出版広報編集部
発行所　株式会社オウム
〒154 東京都世田谷区世田谷2―8―17
電話　03（3439）6043　振替　東京2―109325

ISBN 4―900497―78―9　C0014　P980E

麻原彰晃の世界PART5



絶対の真理

麻原彰晃

ISBN4-900497-78-9 C0014 P980E 定価980円（本体951円）